

平成30年度

事業報告書

ともえ学園

平成30年度事業報告書

ともえ学園

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	38
受入回数	9	7	5	4	4	3	5	4	3	3	3	2	52
受入延日数	56	49	52	44	37	39	48	39	36	39	38	34	511

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
受入回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
受入延日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

④在所者状況（平成30年3月31日現在）

年 齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	2	0	2
25～30歳未満	1	0	1
30～35歳未満	6	0	6
35～40歳未満	4	0	4
40～45歳未満	14	1	15
45～50歳未満	17	1	18
50～55歳未満	14	2	16
55～60歳未満	7	0	7
60～65歳未満	1	0	1
65～70歳未満	0	0	0
計	66	4	70

在 園 年 数	男	女	計
0～1年未満	1	0	1
1～5年未満	1	0	1
5～10年未満	6	0	6
10～15年未満	6	1	7
15～20年未満	8	0	8
20～30年未満	31	3	34
30～35年未満	13	0	13
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	50	3	53
精神発達遅滞	10	0	10
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	30	0	30
5	24	4	28
4	11	0	11
3	1	0	1
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	6	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	石川県津幡町	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	2	1	1	0	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	70

(高田孝康)

2 トライアングルグループ

1 グループ目標

- ・利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。
- ・ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

2 生活全般

①目標：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・健康、清潔の維持に努める。

②内容

衣 類 整 理：衣類を洗濯室から自室に持ち帰り、普段着を棚へ収め、パジャマの準備を行う。

- ・衣類カゴにパジャマを入れて脱衣室の棚へ持って行く。
- ・衣類カゴは洗濯室に返す。
- ・支援の必要な利用者は職員が側について一緒に行う。

＊衣類棚は常に施錠を行う。

- 衣 類：職員は、破けたりゴムが伸びた物は、補修したり新しい物と交換を行った。
 - ・季節に応じた衣類を着てもらったり、足りない物は、購入した。
 - ・正しい着こなしが出来る様に声を掛けた。
- 食 事：配膳口からセルフでお膳にセットし、席まで運び、摂取する。
 - ・ゆっくり食べられる様に声掛けを行った。
 - ・安心して食事が出来る様に席にも配慮した。
- 入 浴：グループ毎での入浴を行う。洗体、洗髪が行えるよう個別の支援に取り組む。
 - ・入浴の順番を決め、少人数でゆっくりと入ってもらう。
 - ・入浴後皮膚疾患のある利用者には、個々の薬を塗布する。
 - ・踵や手の荒れを防ぐ為、クリームを塗布し、冬場はソックスを履いてもらう。
- 手 洗 い：飲食前やクラブ活動後などに、手洗いをを行う。
 - ・石鹸を泡立てて手を擦るなど確実な手洗いが行えるよう支援を行った。
 - ・手指乾燥機の使用の支援を行った。
- 整 容：朝食後の歯磨き後に洗顔を行う。できない人は、職員が支援を行った。
 - ・髭剃りについては起床後、職員が全面的に支援を行った。
- シーツ交換：毎週土曜日に更新。できる限り、自分のシーツは、自分で交換をしてもらった。
 - ・失禁等で寝具が汚れやすい利用者については、個別に敷きパット等を使用し、なるべく寝具が汚れないように配慮した。
 - ・シーツが汚れたときは、速やかに交換を行った。
 - ・天気の良い日は、外へ干した。寝具が湿る利用者については、毎日外へ干したり布団乾燥機を使用して清潔に努めた。

健康管理

- ・月1回血圧、体組成測定、腹囲測定を行い増減のチェックを行った。
- ・毎週日曜日の午後、爪切り、耳チェックを行った。

③経過・課題：

- ・シーツ交換は、職員の支援によってできる人が増え定着してきた。
- ・手洗いや手指乾燥などが不確実な利用者が多いため、今後も継続し手洗い、手指乾燥ができるよう取り組む必要がある。
- ・下着シャツを出していたり、汚れた衣類や破れた衣類を着ていた時は、速やかに身だしなみを整える支援を行ったり更衣を促した。
- ・衣類の不足がないように早めに購入をしていく。
- ・季節と体にあった衣類の提供をしていく。
- ※課題としては、
 - ・担当利用者の持ち物の整理、不足衣類のチェックなどを定期的に行う時間を作る。

3 口腔ケア

- ①目的：口腔内の残渣物除去を行う。
 - ・口腔内の健康維持を目指す。
 - ・口腔内の異常の早期に発見し看護へ報告し治療してもらう。
- ①内容：毎食後の歯磨き支援を行う。
 - ・利用者一名につき月二回、丁寧にブラッシングをし、口腔内のチェック等を行った。

- ・気づきを、表に記入した。緊急性と判断した利用者さんについては、看護に連絡、その他気づきは、月末にまとめて看護に報告した。

③経過、課題、まとめ

- ・毎週金曜日（行事がある日は除く）に居室の通り毎に口腔ケアを行った。
- ・毎週金曜日に口腔ケアの時間を設けたことで、詳しく口の中を確認することができた。
- ・年に1回の歯科健診の結果を利用者毎にパソコンへ保存した。その結果を元に虫歯や歯の動揺等が見られる利用者から歯科受診へ行ってもらった。
- ・歯周、歯肉炎予防の為、昨年よりコンクールを毎日1回昼食後の歯磨き時に使用し始めた。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・口腔内の異常を早期発見することで、今後の健康にも関わってくると感じた。また、うがいができない利用者さんが多く、うがいにも力を入れていく必要があると感じた。

4 清掃

①目的：生活棟の清潔を保つ。

②内容：一日、3回のオキシヴィルファイブ128倍液に浸したモップでの床拭き掃除を行う。

（居室は一日一回）

- ・ドアノブ拭きをオキシヴィルファイブ128倍液に浸したクロスを使用して行う。
- ・トイレ掃除を一日3回定期的に行い、汚れなどがあつたと時には速やかに清掃した。
- ・汚れている布団やシーツはその都度交換した。
- ・一日一回天窓を開けて換気を行った。

③経過・課題

- ・布団乾燥については、天気の良い時には、外へ干した。
- ・年二回、グレーチング、窓のサンや窓、女性棟の浴室、倉庫等の清掃を行った。
- ・洗面所については、汚れが目立った時に清掃を行った。
- ・居室の棚やテレビの棚の下等汚れが目立つ所があるが、清掃の時間が取れないのが課題。
- ・トイレや居室で異臭がすることがある為、消臭が課題。

5 日課

クラブ活動

①目標：午前中は活動着に更衣をし、活動を行う。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容

- ・石、雑草や枝木の運搬、落ち葉集め、畑で野菜作り、プランターでの花作り、活動センター周りの花壇の手入れを行った。
- ・雨天時は、20分間の室内ウォーキングや、センター内ウォーキングを行った。

③経過

- ・バケツを使用して石拾いや腐葉土集めを行った。1年間を通して怪我無く作業を行えた。
- ・畑での野菜作りを行った。大葉、ミニトマト、大根、ジャガイモ、南瓜等の収穫できた。収穫する喜びを感じてもらった。（猛暑だった為に、野菜の生育が悪く収穫量は少なかった）
- ・収穫した野菜は、厨房へ提供し、利用者の副食の具材にしてもらった。

- ・毎月末、慰労会を行い、活動の報告、写真を見ながらの表彰、収穫した野菜を試食してもらったり、間食作りを行い1ヶ月の労を労った。
- ・慰労会での手作り間食は衛生上の問題がある為に9月より中止とした。間食は利用者さんに、食べたい間食を聞き購入するようにした。
- ・活動センター前花壇には、グラジオラスの球根を植えた。咲いた花は、フラワークラブの講師の先生が購入してくださった。

④課題

- ・見守りが必要な利用者が増えたことで、なかなか全員参加で同じ活動が難しくなってきた。
- ・活動内容も利用者さんにあった物の提供を行う。元気な人はしっかりと動ける取り組みも必要。その為、小グループ化を考慮したり、他グループの活動に参加する等検討を行う。
- ・雨天時の活動について、ウォーキング以外も考えていく。

作品作り

- ①目的：少人数で作品を作ることで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋げていく。
 - ・作品作りを通して利用者がどんな作業ができるかを探し出す。
 - ・できあがった作品を見ることで季節を感じたり、気分転換の一助にする。
 - ・文化祭で展示し発表の場とする。
- ②内容：文化祭に向けての四季を表現した紙粘土アートを作成した。
春：ひな祭り 夏：ひまわり 秋：お月見 冬：ツリーと雪だるま

③経過・課題

- ・全利用者が作業工程のどれかの作業に携わることが出来た。
- ・積極的に作品作りをしようとする利用者も数名おり、楽しそうに参加していた。
- ・取りかかりが少し遅くなったが、その分、職員同士の連携もあり仕上げることができた。
- ・昨年に使用した残りの毛糸も、活用することができた。
- ・文化祭に展示をするための作品しか作成しなかった。年間を通して、取り組めると良かった。

個別活動

- ①目的：少人数で活動をする事により利用者への理解を深め、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上につなげていく。
- ③内容：月～木の午後から利用者にあった活動を職員と一対一や一対二で行った。
 - ・場所：活動センター二階、居室、マシン室、遊歩道等
 - ・計算ドリル、漢字ドリル、文字を書く練習、塗り絵、編み物、ピアノ演奏、絵本、フライングディスク、ペダリング、ウォーキング、テレビゲーム、ジグソーパズル、読書、読み聞かせ、音楽鑑賞、カレンダーを利用したコミュニケーション、自転車等

③経過・課題

- ・各利用者の施設サービス計画に反映し、利用者の新たな一面を発見できるよう努めることができた。
- ・別の空間でゆっくりと過ごすことができた。
- ・利用者によっては、個別の時間を楽しみにしている様子が伺えた。

地域交流

- ①目的：地域の人とコミュニケーションを図る。
地域で農業体験をする事で気分転換を図る。

個別（少人数）で参加し、出来る事を見つけて行く。
職員も農園で体験することで、活動への視野を広げていく。

②内容：7月6日（金）雨天の為中止

9月11日（火）3名参加 菊畑の整理

- ・作業終了後は、農園の方からお茶とお菓子を頂き、一緒に食べる事で、関わりを持つことができた。

③経過・課題

- ・回数を重ねることで利用者も農園の方にも親し身を持てたようで作業もスムーズに進んだ。
- ・農園の都合と予定したい日日が合わないことがあった。また、今年度は、勤務の作成段階で、交流の予定を組むことが難しく、ほとんど行けなかった。

運動

①目的：体力維持、向上を目指す。

- ・楽しみながら体を動かす。

②内容：雨天時活動が出来ない日のマット運動、平均台、跳び箱、フリスビー、ウォーキングなど

③経過、課題

- ・遊歩道、室内ウォーキングを主体に行った。
- ・ウォーキング以外は取り組む事がほとんど出来なかった。グラウンドゴルフを2、3回行った。
- ・球技大会の時期になると参加者はフライングディスクの練習日として設けた。
- ・利用者が進んで取り組みやすいのがウォーキングということもありウォーキングを行う事が増えている。小グループ分けをして球技等に取り組む工夫が必要。

マシン

①目的：マシン運動を行い、基礎体力保持と介護予防を目的とする。

②内容

- ・マシン操作ができる利用者を主に対象とする。
- ・個別活動で取り組んだ。その他の時間では取り組む事が出来なかった。
- ・マシンの実施状況、利用者の様子を記録用紙に記入した。

③経過・課題

- ・午後からの活動が室内ウォーキングと個別活動に当てられていたので、曜日や時間等は決めずに個別活動の中で取り組んだ為、実施回数はかなり少なかった。
- ・全ての利用者さんがマシンを正しく使用していくことは難しいため、特定された利用者しか行わなかった。

6 行事

①目標：利用者個々に応じた行事を提供する。

- ・季節感を実感したり、様々な体験をしてもらえる事で充実した生活を送ってもらおう。
- ・誕生日を意識してもらい楽しい日を過ごす。

②内容

- ・季節の行事

月	日	行 事 名	参加人数	場所
4	5	お花見会	26名	高平山神社

5	9	バスハイキング	26名	風土記の丘
6	6	バスドライブ	26名	川西郷の駅 いつわの里
7	5	バスドライブ	23名	県立三次運動公園
7	27	バスハイキング	25名	鮎の里
8	9	夏祭り	26名	プレイルーム
9	7	バスドライブ	25名	道の駅ゆめランド布野
10	5	バスドライブ	25名	風土記の丘
10	24	バスドライブ	26名	高谷山公園 療育センタープレイルーム
11	5	バスドライブ	25名	庄原市上野総合公園
12	7	忘年会	26名	プレイルーム カレンダー作り
1	5	新年会	26名	プレイルーム 絵馬
2	8	お楽しみ会	26名	プレイルーム ゲーム
3	6	バスドライブ	26名	高宮の道の駅

・日帰り旅行

月	日	参加人数	場所
4	18	2名	豊平どんぐり村・サンクス
5	10	3名	香木の森（島根県）
	25	3名	出雲空港（縁結び空港）
6	13	2名	備北丘陵公園
	22	3名	鏡山公園、上ノ原牧場（東広島）
7	13	3名	松江フォーゲルパーク
8	20	3名	三瓶山 北の原キャンプ場
	24	3名	しまね海洋館アクアス
9	14	3名	東広島 八天堂工場
	20	3名	比和自然科学博物館
11	16	3名	豊平どんぐり村
	28	3名	ヌマジ交通ミュージアム、しまむら
3	14	3名	世羅ワイナリー、ゆめ公園
3	22	3名	道の駅（キララ）・出雲大社

・誕生者お祝い会

月	日	行 事 名	場所・備考
5	5	誕生者お祝い会	CCプラザ、トライアングル宿直室
	17	誕生者お祝い会	カドーベーカーリー、トライアングル宿直室
6	5	誕生者お祝い会	CCプラザ、トライアングル宿直室
	18	誕生者お祝い会	ユニクロ、ジョイフル
7	17	誕生者お祝い会	ブラン
	18	誕生者お祝い会	CCプラザ
	24	誕生者お祝い会	セブンイレブン、センター宿泊室
8	15	誕生者お祝い会	サングリーン・トライアングル宿直室
	15	誕生者お祝い会	カドーベーカーリー、センター宿泊室
	17	誕生者お祝い会	CCプラザ、ダイソー
9	26	誕生者お祝い会	モスバーガー

10	28	誕生者お祝い会	CCプラザ
	17	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	6	誕生者お祝い会	センター宿泊室
11	18	誕生者お祝い会	セブンイレブン、センター宿泊室
	19	誕生者お祝い会	CCプラザ
	23	誕生者お祝い会	風季舎、センター宿泊室
12	23	誕生者お祝い会	コーギーガーデン、しまむら
	20	誕生者お祝い会	サングリーン、センター宿泊室
	22	誕生者お祝い会	ファミリーマート、センター宿泊室
1	8	誕生者お祝い会	サングリーン
	18	誕生者お祝い会	CCプラザ、センター宿泊室
2	25	誕生者お祝い会	ファミリーマート
	25	誕生者お祝い会	セブンイレブン、トライアングル宿直室
3	12	誕生者お祝い会	ユーホー、モスバーガー

・慰労会

月	日	行 事 名	場所・備考
4	30	慰労会	プレイルーム（人参のホットケーキ）
5	31	慰労会	プレイルーム（ネギ焼き）
6	30	慰労会	プレイルーム（冷やしソーメン）
7	31	慰労会	プレイルーム（フライドポテト）
8	31	慰労会	プレイルーム（かき氷青紫蘇ジュース掛け）
9	30	慰労会	プレイルーム（かりんとう饅頭）
10	31	慰労会	プレイルーム（ワッフル）
11	30	慰労会	プレイルーム（ポッキー）
12	30	慰労会	プレイルーム（高野産リンゴアップルパイ）
1	31	慰労会	プレイルーム（どら焼き）
2	28	慰労会	プレイルーム（ロールケーキ）
3	31	慰労会	

・お楽しみ外出

月	日	参加人数	場所
4	16	3名	高谷山、ピザ店ブリーゼ
5	22	2名	サーティーワン、みよし公園
6	19	2名	島根県飯南町 ステッチカフェ
7	6	4名	CCプラザ
7	12	1名	きんさいスタジアム（悪天候により中止）
8	28	3名	風土記の丘
9	11	3名	県立みよし公園
10	9	2名	三次運動公園、トレッタみよし
11	27	3名	三次ワイナリー、運動公園

・地域交流

月	日	参加人数	場所
7	6	7名	東山農園・小文の畑（天候不良により中止）
9	11	3名	東山農園

③まとめ

- ・季節の行事は季節や気候に合わせた行事を行うことに努めた。
- ・ワックス掛けの日は、7月は、外食を行った。10月は、午前バスドライブを行った。支援職員の確保が難しく、1日掛けてのドライブが出来なかった。
- ・日帰り旅行、お楽しみ外出、誕生者外出、誕生者お祝い会、地域交流を行った。一回の外出で2～3名の利用者に対して2名の職員が付くことで体験などの支援を行うことができた。
- ・誕生者お祝い会については、外泊や行事等で日にちがずれることもあるが、全ての利用者が担当職員と一対一でのお祝いを行うことができた。
- ・毎月末に慰労会では、活動で栽培した作物を利用した間食づくりを行った。前年度からの取り組みで概ね混乱無く過ごすことができたが、年度途中より衛生面の問題で、職員の間食作りを中止とした。できるだけ利用者さんから希望を聞いて、間食を購入し提供することに努めた。

7 トライアングルレクリエーション

平成30年10月14日(日) 10:35～ 14:40 利用者25名 短期利用者1名 14家族 19名参加

①目的：利用者、ご家族、職員、三者の親睦を深めて楽しいひとときを過ごす。

②内容：フラワーアレンジメント（講師 平川氏）、映像鑑賞、間食作り（パンケーキ）

③反省・感想

- ・午前中のフラワーアレンジメントでは、普段取り組んでいるフラワークラブの様子を再現し、講師も平川先生にお願いし、ひと家族で一つの作品に取り組んでもらった。大きなトラブルはなかったが、早く終わってしまう家族と時間を掛けて取り組む家族との差がありすぎて手持ちぶさたにしておられるご家族もあった。
- ・昼食を挟んでから半年分のスライドショーを観賞。昼食とスライドショーに若干時間が掛かったため、予定していた職員紹介は省くこととなった。
- ・午後の間食作りについては数年前から慰労会等において様々な形で取り組んでいるせいもあり、利用者さんの混乱も無くスムーズに進行できた。
- ・職員が主にケース担当のご家族のもとを訪ねて回ることによって利用者さんの近況等の情報をご家族と共有でき、またある程度のコミュニケーションを図ることができたが、ケース担当を意識するあまり同じご家族につきっきりになったり、全く話せていないご家族があったりと、今後に向けた改善点も多く見つかった。
- ・家族にフラワーアレンジメントを体験してもらう事ができ、また、講師の先生とも交流して頂くことができ本当に良かったと思った。家族の方もとても喜んでおられたと感じた。アレンジメントが終了後も職員が一組ずつまわっては話しかけを行っていたことは良かった。時間があつたので、職員紹介の時間にすれば良かったと後で思った。家族が来られなかった利用者さんが大変落ち着いて参加出来たことも良かった。
- ・午後からのパンケーキ作りも、どの家族も真剣に楽しそうに作っておられた。衛生にも配慮され、準備もしっかりしていたのでご家族もやりやすかったと感じた。
- ・怪我もなく、無事に終えることができ、全員が参加できてよかった。

8 掲示板

- ①目的：1日の予定を利用者にわかりやすく提示する。
- ②内容：ホワイトボードの当日の予定・勤務者・献立を記載する。
- ③経過、課題
 - ・毎日、夜勤者が次の日の予定・勤務者・献立を更新した。
 - ・マグネットが破けてきたり、使用しなくなる物も出て来るのでその都度更新する。

9 環境

- ①目的：利用者が生活しやすくなるように環境の改善。
- ②内容：ベッド、壁の修繕、ドア、ドアクローザーなどの定期チェック。
 - ・季節に応じた水道の温度設定。
 - ・ベッド、畳み、水道蛇口の点検
 - ・女性トイレのちり紙入れの作成。
- ③経過、課題
 - ・壁は随時、修理しているが壁紙よりパネルにした方がよい居室もある。
 - ・ドアクローザーの取り付け土台の緩みの点検。
 - ・壁は随時、修理している。
 - ・居室ドア、押し入れの点検。
 - ・ベッドの更新は必要に応じて随時行っていく。
 - ・利用者が安心して生活できる様に環境を整備して行く。

1 1 グループ会議

- ①目的：より良いサービスを提供できるように支援内容、各活動についての課題を協議する。
 - ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。
 - ・取り組みについての意識統一を図る。
 - ・会議の前の月のサービス担当者会議で決まった個別の取り組みについて担当者より報告を行う。
- ②内容
 - 4月 5日（木）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 清掃 処遇改善（薬準備後の確認）活動 生活 口腔ケア
ケースカンファレンス（7名） サービス担当者会議より（4名）
 - 5月 9日（水）運営会議より 次長より 部長より 支援部課長会議より
虐待防止委員会より 危機管理委員会より 行事 活動 生活 清掃 確認事項
ケースカンファレンス（7名） サービス担当者会議より（4名）
 - 6月 6日（水）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
人権委員会より 行事 ケースカンファレンス（4名）
サービス担当者会議より（3名）布団について 食堂のイスについて
 - 7月 5日（木）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
部長より 行事 活動 地域交流 作品作り ケースカンファレンス（4名）
サービス担当者会議より（2名） 個別活動について 排便記録について
 - 8月 9日（木）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 トライアングルレク 個別活動 生活 サービス向上委員会より

- ケースカンファレンス（3名） サービス担当者会議より（4名）
 食事後の利用者支援 利用者さんからの距離感と接触調査 食堂の丸いす
- 9月 7日（金）運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 人権委員会より
 サービス向上委員会より 支援部課長会議より 行事 生活 活動 個別活動
 午後からの活動 作品作り ケースカンファレンス（8名）
 サービス担当者会議より（2名）
- 10月 5日（金）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
 サービス向上委員会より 人権委員より 行事 トライレク 生活 口腔ケア
 作品作り 清掃 ケースカンファレンス（2名） サービス担当者会議（5名）
- 11月 5日（月）運営会議より 支援部課長会議より サービス向上委員会より
 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 行事 活動 生活 中庭の片付け
 ケースカンファレンス（3名） サービス担当者会議より（4名）
 薬を準備した後のチェックについて
- 12月 7日（金）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
 サービス向上委員会より 人権委員会より 行事 活動 清掃
 ケースカンファレンス（5名） サービス担当者会議より（4名）
 フィルター掃除について バスドライブの帰園時間について
- 1月 5日（土）運営会議より 支援部長より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より
 危機管理委員会より 行事 生活 ケースカンファレンス（5名）
 サービス担当者会議より（1名） フィルター掃除について
 衣類棚や窓の施錠について 外泊後の様子観察での個室対応について
- 2月 8日（金）運営会議より 支援部長より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より
 危機管理委員会 サービス向上委員会より 行事 活動 生活 口腔ケア 環境
 ケースカンファレンス（11名） サービス担当者会議より（2名）
 食事について 決裁メールについて 記録について 片付けについて
- 3月 6日（水）運営会議より 支援部長より 栄養課長 支援部課長会議より 支援課長より
 虐待防止委員会より 危機管理委員会より サービス向上委員会より 行事
 活動 生活 環境 口腔ケア ケースカンファレンス（4名）
 サービス担当者会議より（3名）・身体拘束記録について

③経過、課題

- ・会議内でのケースカンファレンスでは、不適切な行動がある利用者を中心とし、支援内容の確認を行った。サービス担当者会議を行った利用者の取り組みについて、担当職員から報告してもらった。
- ・職員が意見を出せるように司会を務めたつもりだが、同じ職員しか発言が無かった。議題によっては、活発に意見が出て討論ができた会議もあった。意見を出しやすい雰囲気作りが必要。
- ・グループ職員へ議題の提出を求めたが、殆ど記入が無かった。
- ・夜勤入り、明け職員の議題の収集に課題が残った。
- ・会議の記録の職員に、会議終了後会議録を作成してもらいその日のうちに決裁周知をすることで、会議に参加出来なかった職員への周知が早くなった。

12 まとめ

- ・クラブ活動については、午前午後と活動に着替えて、実施していたが、6月頃より猛暑で、午前のみ外での活動とした。午後からは、室内ウォーキングと個別活動に別れた。外での活動では、バケツを持って遊歩道へ行き、草や落ち葉を集めて畑まで運搬を行った。畑には、色々な作物を植えたが、猛暑で畑の手入れが出来なく、収穫ができなかった。
- ・個別活動の時間を設けた事で、担当職員が担当利用者と活動センターで、ゆっくりと関わる時間が持て有意義な時間を過ごす事が出来るようになった。
- ・外出については、一人1～2回の日帰り旅行を実施した。また、午後から短時間の外出（お楽しみ外出）を実施し、一人1回は参加してもらった。
- ・安全長靴を購入し、それを収納する倉庫も購入してもらった。
- ・Fさんの不適切な行動（多動、体重減少、不眠、暴言、暴力等）が顕著となり、3月25日から精神科に服薬調整で入院している。
- ・毎月末には、慰労会を実施し、その月に行った事や活動を振り返り、頑張った大賞として表彰した。前半は職員の手作り間食を提供していたが、衛生面での問題があり中止とし、利用者さんが希望する間食を選んで購入して摂取してもらった。
- ・健康面においては、感染症が流行ることなく元気に過ごせた。
- ・口腔ケアや清掃、除菌などの感染症予防を引き続き継続する。
- ・利用者の人権を守り、優しい統一した支援をおこなう。
- ・利用者、職員共健康に留意し、毎日を生き活きと過ごせるよう配慮する。

（久保宏子、福永真也、岩戸洋三 山地恵子 若床まゆみ、濱本 豊、林 宏典、
藤井秀樹、上川清美、高森 強 金田和夫、圓藤久明、岩増文生）

3 レインボーグループ

1 グループ目標

- ・言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。
- ・体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。
- ・安全で清潔な生活環境を提供する。
- ・楽しみのある生活を送る。

2 生活

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・活き活きとした生活を送られるよう支援する。
- ・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴になり、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

- ・排泄後の支援（ちり紙を渡す）を行う。
- ・朝食後、昼食後に全員排便誘導を行い習慣付を目指した。

- ・排便後、排便確認表に記入した。

運 動：午前と午後の集い前に、音楽をかけながらウォーキングを行った。

寝 具：週一回日曜日にシーツ交換、また日常的な汚れはその都度交換した。布団乾燥機を使用して毎日2名ずつ布団の乾燥を行った。

- ・必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用。
- ・午睡用にリビングに、タオルケット5枚を共有の物として使用した。

衣 類：年2回の衣替え・適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けをして交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。ミシン補修できるものに付いては適宜補修を行った。ソックス専用のケースを倉庫に保管している。

- ・他利用者により破られた衣類・靴の弁償を2か月に1回行った。

日用品：在庫確認による常備。早めの発注を心掛けた。

掃 除：掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

- ・専用の床用モップ10枚、窓・ノブ等用クロス5枚。
- ・床拭き（午前、午後、準夜帯）… オキシヴィルファイブ
（感染症発症時）… ピューラックス
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き（一日1回、随時）
- ・トイレ掃除（一日3回随時）

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確実な手洗いをを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前のジェスパ。

顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。

髭剃り：朝食後、個人用の電気カミソリでの髭剃り実施。

散 髪：定期的に実施。個々にあった髪型にする。

薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬・皮膚疾患への薬の塗布を、食後や決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて医務との連携を取り処置をした。

冬の乾燥時期は毎食後、歯磨きの後にワセリンを塗布し唇の乾燥対策を行った。

服 薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。与薬確認を確実にし誤薬には注意した。

検 温：起床時と午後の集い前に検温を行った。感染症時には検温時間を増やし、個室対応者用の検温表を作成した。

その他：洗面室のソファーカーバーの作成。適時にカバー洗濯を行った。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調等、日頃の様子観察をし、看護との連携を取る。細かいことでも看護に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

2) 口腔ケア

①目的：口腔衛生を保ち、歯周病を予防し健康な生活につなげる。

②内容：毎食後の歯磨き実施。

- ・適時、歯ブラシの交換。

- ・平日に毎日2名ずつ、口腔ケアを行い歯周病防止に努めた。また口腔チェックシートに記録を行った。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・昼食後の歯磨き時には全員コンクールを使用し、ブラッシングを行った。

③経過、課題

- ・変わった事があれば看護に報告し歯科受診を行った。

3) 活動

①目的：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。
- ・バスドライブやいつもとは違った間食を摂ることで、クラブ活動への意欲に繋げる。

②内容：月曜日～金曜日の午前

- ・きのこクラブ・・・ホダ木の移動、植菌、水槽浸け、水槽上げ。
落ち葉・草集め・枝木の整理。
(雨天、プレイルーム雑巾掛け、冬季は室内ウォーキング)
- ・生き生きクラブ・・・室内清掃、ウォーキング(雨天、冬季は室内ウォーキング)
- ・年間を通し、数回バスドライブと外注の間食を摂る。(7月、10月、3月)

③経過、課題

- ・きのこクラブは原木の運搬を中心に行い、水槽付け、水槽上げ、天地返しを行い、昨年度同様に単管パイプ設置場所に原木をふせ込んだ。冬季はハウス内にて植菌作業を行った。
- ・きのこクラブの長靴の更新をした(安全長靴)。
- ・午後からの活動としては、ウォーキング中心の取り組みを行った。
- ・生き生きクラブはタオル畳みとウォーキングを中心とした活動を行った。
- ・作品展示会に向けて、万国旗の作成や年賀式用の飾り作り等も行った。
- ・昨年の反省と同じであるが午後からの活動として、何を行うか、利用者が安定して行える活動プログラムを考えていく必要がある。
- ・年間を通して、毎月のバスドライブは難しいと思われるが定期的に行い、利用者の慰労、クラブ活動への意欲に繋げていきたい。

4) 環境

①目的：怪我のない安全な空間を提供する。利用者が楽しみを持って生活出来る環境作り。

- ・破損した物の修繕と交換。

②内容：破壊行為等による破損は営繕係と協力をして早めに対処を行った。

- ・活動用の長靴を日差しから守るため遮光カーテンを設置した。
- ・劣化が目立ち怪我をする恐れのあるベッドを更新した。
- ・居室のネームプレートを更新した。

③経過、課題

- ・破損箇所特に壁穴については随時修繕し営繕との協力をしてスピーディーな修繕を行えたと思う。

- ・今後も利用者が破壊に至らない支援を前提に不測の事態には早い修繕が出来るよう再度必要物品の補充を行っていく。

5) ブログ

- ①目的：ホームページのブログを通じて利用者の生活や外出した様子を、家族や各方面に発信する。
- ②内容：行事や日課、日々の生活風景等を毎日紹介した。
- ④経過・課題
 - ・撮影対象者の一ヶ月ごとの予定表を作成した。一ヶ月で全員が紹介出来るよう配慮したが、予定通り行かない事もあった。
 - ・レインボーグループの利用者は一定の方向を見たり動きを止める事が難しい面もあるので全体写真を撮る時は少し多めに写真を撮り、その中から写真写りの良い物を選ぶようにしたい。
 - ・今後も写真を撮る際は身だしなみなどに注意しながら撮影していきたい。

6) 日課、日誌

- ①目的：日課を変更毎に更新を行った。
 - ・確実、かつスムーズに支援する為の日課表の作成を心掛けた。
 - ・利用者の状況や確実な支援が行える為の日誌様式の変更を行った。
- ②内容：一日の流れと勤務形態を分かりやすく記載した。
 - ・利用者の動きや日課の流れを確認して記載した。
 - ・ミスの起こらない支援ができるよう、各マニュアルの変更と徹底化を行った。
 - ・受診、外出等の予定を分かりやすく、記入しやすい様式にした。
 - ・短期入所者を含め、在園数の記入欄を把握しやすい様式に変更した。
 - ・利用者の状況に応じて変更を行った。
- ③経過・課題：定期的に日誌様式の見直しを行った。今後も行っていく。

7) 処遇改善

- ①目的：業務の省力化、効率化、見直し。
 - ・情報の交換や提案を行う。
 - ・利用者が快適に生活出来る環境をつくる。
- ⑤内容：施設内メールの掲示板を活用して、情報の交換や提案、職員への周知を行い、業務の改善に役立てる。情報を集めて来年度へ向けて活用する。随時、会議を利用して検討、改善を行った。
- ⑥経過・課題
 - ・日課や取り組みの変更、利用者対応の情報など、さまざまな懸案事項について話しを行い改善出来るところは情報交換、共有し、利用者支援などにあたった。
 - 改善案を提案してもらう事で、業務の改善に役立ったと思う。
 - ・効率が悪く仕事をしている場面もあるが、利用者の対応や時間の使い方、難しい場面も多く見受けられる。報告、連絡、相談をこまめに行う事が求められる。
 - ・日々、改善出来る事はないか考えながら業務をおこない、職員からの改善提案を出し易い方法を模索していく。
 - ・会議で提案された音楽等の音量は、職員に合わせるのではなく落ち着いた環境になるよう利用者が心地よく聞けるであろう範囲にする。

3 行事

1) 誕生者外出

①目的：誕生日を迎えた事を感じてもらおう。

・誕生日に担当職員と外出やお祝い会を行い、親睦を深めてお祝いをする。

②内容：誕生日の日（もしくは近日）に午後から外出をする。

外出日	年齢	場所
4月4日	46歳	療育センター宿泊室
4月16日	54歳	療育センター宿泊室
4月27日	43歳	尾関山、コンビニ
6月18日	41歳	しまむら・コンビニ・県立みよし公園
6月30日	50歳	CCプラザ、療育センター宿泊室
7月27日	51歳	CCプラザ、レストランV
8月5日	54歳	療育センター宿泊室
8月8日	44歳	しまむら、CCプラザ
8月31日	50歳	しまむら、コンビニ、県立みよし公園
9月28日	56歳	療育センター宿泊室
10月9日	44歳	喫茶店モンブラン
11月5日	50歳	and coffee
11月10日	48歳	CCプラザ
11月13日	47歳	コンビニ、森の泉
11月26日	52歳	ユニクロ、コニリア
11月30日	52歳	療育センター宿泊室
12月13日	46歳	風季舎、療育センター宿泊室
12月27日	33歳	フタバ三次店、不二家、療育センター宿泊室
1月19日	50歳	コンビニ、療育センター宿泊室
2月10日	32歳	コンビニ、県立みよし公園
2月15日	41歳	フレスタ、コンビニ、県立みよし公園

③経過、課題

・誕生日である事を理解してもらい、年齢や興味など、個々の利用者に合った外出やお祝い会を計画していく事が課題である。

2) レクリエーション

①目的：季節感のあるレクリエーションを提供する。

②内容：レインボー会議のある日の午後に、季節に応じたレクリエーションを行う。

実施日	行事名	場所	内容
4月9日	お花見会	君田遊園	お弁当会食、散歩
8月3日	夏祭り	センタープレイルーム	グラントゴルフ、知せん作り
12月5日	忘年会	センタープレイルーム	カラオケ、ゲーム
1月9日	新年会	センタープレイルーム	新年の抱負、正月遊び

2月6日	お楽しみ会	センタープレイルーム	カラオケ、節分ゲーム
------	-------	------------	------------

③経過、課題

- ・予定通りに実施することができ、季節を感じて頂ける事が出来たと思う。

3) バスドライブ・バスハイキング

①目的：ドライブすることによって気分転換を図る。

- ・普段と違う場所での散策を楽しむ。

②内容：レインボー会議のある日の午後にマイクロバスでドライブ。

- ・昼食のお弁当や間食を持って行き、山や公園で食べたり、散歩や遊具で楽しんでもらった。

実施日	行き先	参加人数
5月7日	灰塚ダム	21名
6月8日	作木カヌー公園	21名
7月9日	風土記の丘	20名
9月10日	県立みよし公園	19名
11月9日	高谷山展望台	21名
3月14日	水道橋公園	20名

③経過、課題

- ・7月、9月、3月は体調不良者があり、全員で参加出来なかったが、その他の月については全員参加で実施する事が出来た。また天候により目的地を柔軟に変更して実施した。
- ・散策や遊具で楽しむ時間をしっかり取り、のんびりとした時間を過ごせてもらえた。
- ・利用者は特別の間食や出掛ける事自体を毎回楽しみにしていた。
- ・季節によっては感染症対策の為、無理のない外出を計画した。

4) 外出

①目的

カフェ外出

- ・外出することにより気分転換をはかり、通常生活の励みにする。

日帰り旅行

- ・好きな昼食を食べ、一日をゆつくりと過ごし、気分転換を図る。
- ・色々な経験の場を提供する。
- ・食べること以外の楽しい体験をしてもらう。

②内容

- ・カフェ外出（午後からの外出）
- ・日帰り旅行（一日を通して楽しいことを体験してもらう外出）

実施日	内 容
4月3日	カフェ外出：世羅道の駅
4月20日	日帰り旅行：マリーナホップ
5月11日	カフェ外出：道の駅高野「そらら」

5月18日	日帰り旅行：島根県雲南市三刀屋
5月23日	カフェ外出：親水公園、みよしワイナリー
6月7日	カフェ外出：三次市秋町 福原商店
6月12日	カフェ外出：雲南道の駅 たたらば壺番館
6月14日	カフェ外出：cafemame茶
7月10日	カフェ外出：土師ダム
7月20日	日帰り旅行：三瓶小豆原埋没林公園
7月24日	カフェ外出：マクドナルド三次店、県立みよし公園
8月7日	カフェ外出：ジョイフル三次店
8月23日	日帰り旅行：トムミルクファーム
9月20日	カフェ外出：二本松牧場牛の革
9月25日	カフェ外出：ミスタードーナツ三次
10月2日	カフェ外出：and coffee
10月11日	日帰り旅行：THE OUTLET広島
10月15日	カフェ外出：森の泉 パン屋
11月20日	カフェ外出：しまむら、ミスタードーナツ三次
3月18日	カフェ外出：川西郷の駅、風土記の丘

③経過、課題

- ・利用者の方は、外出をととても楽しんでいた。
- ・希望に添った旅行が出来るように計画を立てたが、参加メンバー全員が出来るというのは難しい所もあった。
- ・体調不良者があったが、メンバーや場所を変更することでスムーズに行えた。

5) レインボーレクリエーション

平成30年10月6日（土）利用者21名 家族参加なし

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：療育センター

③内容

- ・療育センタープレイルームで7箇所のゲームコーナー。
- ・午後からは手作り間食作り。（クリームソーダ、春巻きクレープ）

④経過・課題

- ・台風接近の為、2日前までに2家族のキャンセルがあった。前日に参加家族に連絡をし、レクリエーションは実施するが、安全を考慮して参加を遠慮していただく事になった。
- ・当日は利用者と職員だけのレクリエーションになったが、ゲームコーナーを一箇所にまとめ全員で楽しめる物となった。
- ・間食作りはクリームソーダと春巻きクレープを作った。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、個別処遇、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

②内容

- 4月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（1名） 口腔ケアについて 日課について 異食について
- 5月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（6名） クラブ活動・日課の確認
- 6月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（6名）
- 7月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から 人権委員会から ケースカンファレンス（2名） 研修会について 排便確認について
- 8月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（6名） クラブ活動・日課の確認 排泄について
- 9月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（4名） 日課の確認 レインボーレクについて
- 11月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から サービス向上委員会から ケースカンファレンス（7名） 日課の確認 冬場の行事について ケース記録について
- 12月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（4名）クラブ活動の確認 ノロウイルス対策について
- 1月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から サービス向上委員会から ケースカンファレンス（5名） クラブ活動の確認
- 2月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から 人権委員会から ケースカンファレンス（5名） クラブ活動について
- 3月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会・危機管理委員会から ケースカンファレンス（6名） 行事について

③経過、課題

- ・支援については利用者さんの様子や変化について、ケース担当者を中心に毎月の会議や社内メール等で意見交換を行いながら、支援方法の検討や統一を図るよう話し合った。
日々の業務についても、よりスムーズに業務が行えるよう都度改善し、イレギュラー時には職員間で臨機応変に対応し、次の会議で対応方法の話し合いを実施した。
- ・利用者さんの様子や行動は、日々同じではないので今後もお互いの情報を報告、確認しながら必要に応じて支援方法の見直しをしていく必要がある。

5 まとめ

- ・今年度も、クラブ活動としては月～金曜日の午前中のみ行った。午後からはウォーキングが中心でこのクラブ、いきいきクラブと分かれて山の遊歩道、学園周りと分かれて行った。
夏の暑い時期は屋外での活動は控え運動不足にならないように室内を歩いた。
- ・利用者さんについては、服薬調整のため精神科への入院、蜂窩織炎（ほうかしきえん）、右外踝部膿瘍、便秘症の治療の為入院、転倒して怪我をしたり、腰椎圧迫骨折等受診も多かった。幸いなことに今年度はインフルエンザなどの感染症に罹る人はいなかった。しかし、加齢と共に体力低

- 下も早いと思われ、他傷、自傷等での怪我も多く今後も様子観察、見守り支援や個別対応が必要。
- ・来年度も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行っていく。また個々に応じた方法で体力を維持し、健康に過ごしてもらえよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

(藤田由香里、堂西美保、桑田樹実、中岡健太郎、見土 唯、竹林祐樹
熊澤誠治、中野基行、藤本将太郎、藤井佑紀、河合淳雄、毛本章義)

4 はなまるグループ

1 グループ目標

- ・利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重し、健康で豊かな生活を支援する。
- ・清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

2 生活

1) 環境改善

①目標：快適かつ個別配慮された生活環境の整備を行う。

- ・建物、建具の損傷、改善に努め、補修、交換、修繕、改良を行う。

②内容：1日に廊下を3回、窓やドアノブを2回、居室を2回、掃除を行った。

- ・外泊時には普段行き届かない所の掃除や物品の整理を行った。
- ・冬場は加湿器を稼働させ、結露はワイパーでとってもらった。

③まとめ：7通りの洗面室にシャワー室の設置、廊下にキッチンパネル貼付、リビングと6通りトイレの床シートの貼り替え等があり、現状は損傷箇所がなくなり汚れもない状態である。この状態を維持できるよう今後も掃除を入念に行いたい。

- ・損傷していた箇所については、すぐに修繕できる損傷に関してはすぐに対応したが、すぐに修繕できない損傷に関しては営繕に対応してもらった。

2) 衛生・口腔ケア

①目的：感染予防と対応

- ・健康維持

②内容：入浴後も含め指示された軟膏塗布・消毒を看護のチェック表に基づき確実に行った。

- ・個々の健康状態の把握に努め、看護との連携を深め、迅速な処置、必要な受診を速やかに実行できる体制作りに努めた。
- ・体調不良の早期発見の為、16時の検温を13時30分に変更した。
- ・午前、午後の活動後や食事前の手洗いうがいの実施、手指消毒を徹底した。
- ・毎月1回体組成測定を行い、健康管理に努めた。
- ・歯磨き支援として毎月4回、24名全員行い、口腔内のチェックを実施した。チェック表を看護職員と共有する事で速やかに歯科受診の検討をしてもらった。
- ・毎週土曜日に爪切り、耳チェックを実施した。
- ・夕食後の歯磨き終了後、全員の歯ブラシをピューラックス液に浸け、消毒を行った。
- ・昼食後は全員仕上げ磨きを行った。
- ・歯ブラシの毛先が開いたら交換を行った。
- ・床拭きやドアノブ等をオキシヴィルファイヴを使用し1日2回行い、感染予防を徹底した。
- ・季節の変わり目には、衣類整理、衣替えを行った。
- ・トイレ倉庫、洗面所下の戸棚の整理を行った。

- ・トイレ掃除の際に、手指乾燥機の掃除を行った。
- ・消耗品の補充や更新を行った。

③まとめ：入浴後の軟膏塗布はチェック表を使用し確実にを行った。

- ・体調の悪い人には早めに対応し配慮できたが、自分から体調の不調を訴えることが難しい方に対しては日頃の様子観察から把握した。
- ・手洗いとうがい、手指消毒を徹底して行ったことで、体調を崩すケースは少なかった。
- ・毎週土曜日の爪切り、耳チェック、日曜日の口腔ケアをすることで、衛生と健康状態の把握の1つになった。
- ・1人につき月2回、口腔状態の観察で、虫歯の発見や、口内炎の発見、看護と情報を共有し早めに歯科受診が出来るようになった。
- ・仕上げ磨きの回数を増やすことで出血など口腔内でのトラブルも減少している。
- ・今後も食事や睡眠時間、口腔ケアに注意し、毎日の生活が精神的、肉体的に安定した状態で規則正しい生活で過ごして頂けるように努めたい。

3 処遇改善

①目的：日課の見直し。業務の省力化、効率化。

- ・個別の取り組み等、日課の中に取り込み実施できるようにする。
- ・情報の交換。意見の募集。

②内容：施設内メールでの意見収集、意見交換、提案。

③まとめ：日課や個別の取り組み、利用者対応などの問題点を意見収集。充実した生活を送って頂く為に、より積極的な情報収集や意見交換を皆で行い、改善案を模索出来るよう考えて行きたい。

4 午後日課

①目的：規則正しい生活をする事によって、生活のリズムを身に付ける。

- ・健康的で潤いのある生活が送られるようにする。
- ・スポーツや畑作りを取り入れ、精神的なストレスを緩和し心の健康を図る。

②内容：運動

- ・マシン
- ・創造活動
- ・プール外出

③まとめ：午後の活動について、主に園内の遊歩道や学園周りのウォーキングを行った。球技大会が近い時は、出場する種目であるフライングディスクやゲート通しの練習を行った。

- ・マシン運動は、希望者のみの個人参加型で行った。数名の利用者の方のみが使用していた。静かな場所で行える事も必要だが、もっと楽しんでもできるような雰囲気作りも必要だと感じた。
- ・創造活動は5月からは11月の文化祭用の展示作品作り目標に「タイルアート」の作成を行い、完成した作品は予定通り、文化祭に展示でき、その後、はなまる玄関に飾った。また、12月からは寄せ木細工で個人所有できるような小物入れや表札作り等を行った。いずれの取り組みも全員が何らかの作業に参加しての作品作り

- ・プール外出はグループを5班に分け、4～5人の利用者と2名の職員で5月から11月までの週1回、布野健康福祉センターのプールに出掛けた。利用者には良い気分転換となる外出となったようだった。
- ・野菜の収穫期には臨機応変に午後からも野菜クラブの活動を行った。
- ・しいたけの収穫、乾燥までの流れを作り、数名の利用者に関わってもらった。

5 クラブ活動（午前）

①目的：活動を通して日課に添った安定した生活の提供と楽しみや、やりがいを感じて頂く。

②内容

・クリーンクラブ：6名

衣類たたみ、タオルたたみ、食堂前廊下掃除、脱衣室の床拭き、生活棟の床拭きと窓ふき
軍手洗い、軍手干し、軍手を束ねる、洗濯室の掃除、乾燥機の掃除

・リサイクルクラブ：9名

缶リサイクル：空き缶の収集、分別、缶潰し、売却、薪作り

紙リサイクル：新聞と広告の分別、段ボールの整理、売却

大田金属への売却回数と金額…アルミと紙の合計 292,060円

・木工クラブ：5名

木工磨き、及び木材を使ったプランター作り、椅子等の小物類の作成、ヘリンボーンテーブルや市松柄のテーブル作成。

・野菜クラブ：4名

種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜き、溝掃除、倒木の整理、面積の広い畑の区分け

③まとめ：職員を各クラブ専属で配置を行った。各所属1名ずつの職員配置となっていたが、しっかりと分担して作業を行うことができた。また、作業量によっては活動グループを合同で行ったりと、臨機応変な対応で作業効率を上げる事も出来た。

木工クラブでは、ヘリンボーンテーブルなど新たな作品の作成を行った。一人一人が分担をし、ヤスリ掛け、色塗り作業等、利用者さんの得意分野を活かした活動が提供出来ていた。

リサイクルクラブではアルミ缶潰し、薪作りを行った。FOXで販売も行い、地域の方からも好評を頂いた。今後も継続して取り組み、地域交流の一つとしても継続的に実施していきたい。

④課題：雨天時や午後活動の充実

6 行事

1) グループ行事

①目標：季節に応じた行事やレクリエーションを提供し、楽しみのある生活を送ってもらう。

②内容

月	日	行事名	場所
4	4	花見会	寺戸親水公園
5	2	在園者バスハイク	鬼の下震
5	11	バスドライブ	郡山城跡
6	4	バスドライブ	道の駅たかの

8	6	夏祭り	学園多目的棟
8	13	在園者バスハイク	いずもまがたまの里 伝承館
9	5	バスドライブ	道の駅「北の関宿 安芸高田」
10	12	バスドライブ	せら夢公園、せらワイナリー
11	3	藤兼祭り	藤兼神社及び藤兼地区
11	12	バスドライブ	道の駅世羅
12	3	忘年会	学園プレイルーム
1	11	新年会	学園プレイルーム
2	4	レクレーション	学園プレイルーム
3	8	お楽しみ会	学園プレイルーム マクドナルド

③まとめ

- ・花見会、夏祭り、忘年会、新年会など季節を感じて頂ける行事ができたと思う。
- ・外泊期間中は、在園者の方にも楽しみを提供出来たと思う。

2) 外出 (お楽しみ外出／日帰り旅行)

①目的

- ・個々のニーズに応じた行事を計画実施し、日課への安定した参加に繋げる。

②内容

(日帰り旅行)

実 施 日	参加人数	場 所
4月12日	2名	啓文社コア福山西、ジョイフル
5月17日	3名	島根ワイナリー ゆめタウン出雲店
5月31日	2名	宮島
6月18日	3名	広島空港、東広島市内
7月30日	2名	島根県大田市 イオンタウン大田
8月1日	2名	バイキングかたおか松江店、カラコロ工房
9月13日	2名	東広島方面、上野原牧場カドーレ
10月4日	3名	くら寿司 道の駅湖畔の里
11月19日	2名	東広島市フジグラン、ジョイフル
3月29日	2名	東広島お宝買取団

(お楽しみ外出)

実 施 日	参加人数	場 所
4月20日	2名	ゆめタウン吉田 清神社
5月14日	2名	ダイソー サングリーン
6月1日	2名	バンバン フタバ図書 マクドナルド
7月3日	2名	ゆめタウン吉田 ジョイフル
8月9日	2名	ゆめタウン吉田 ジョイフル吉田店
9月21日	2名	ゆめタウン吉田 ジョイフル 温水プール

10月30日	2名	ダイレックス、マクドナルド
11月29日	2名	ジミー・カーターシビックセンター sign428
3月12日	2名	サングリーン

③まとめ

- ・出来るだけ利用者の意見を尊重し個人に合う場所の設定に努めた。
- ・冬期や感染症流行時期は外に出る機会が無く、室内行事を行った。

4) はなまるレクリエーション

平成30年9月30日（日） 利用者24名参加

①目的：利用者、ご家族、職員がレクリエーションを通じて親睦を図る。

②場所：ともえ学園・センタープレイルーム

③内容

午前中はバニラアイス作り、午後はたこ焼き作りを行った

④経過・課題

台風接近の為、内容を変更しご家族の方には当日連絡で参加をご遠慮してもらった。

変更前の内容だと準備等に時間がかかる為、内容をシンプルにする事が課題だと感じた。

7 グループ会議

①目的：利用者の生活向上と充実したサービスの提供を目指し、環境・個別処遇・各活動について課題を提起検討する。

- ・ケースカンファレンスを行い、支援についての意識統一と利用者に対する理解を深める。
- ・各部署との意見交換、情報交換、協議。

②内容

4月 防災について、全体係、クラブ活動、日課について、ケースカンファレンス、その他

5月 人権について、全体係、創造活動、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

6月 虐待防止・人権について、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

7月 防災・虐待防止について、クラブ活動、研修について、ケースカンファレンス、その他

8月 防災・虐待防止について、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

9月 調理について、虐待防止、レクについて、クラブ活動、ケースカンファレンス

10月 虐待防止・人権について、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

11月 防災について、創造活動、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

12月 虐待防止について、感染症について、創造活動、ケースカンファレンス、その他

1月 虐待防止について、サービス向上について、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他

2月 防災・虐待防止について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他

3月 虐待防止・人権について、サービス向上について、ケースカンファレンス、その他

③経過・課題

- ・今年度も各委員会からの発信による議題が多く挙げられ、虐待防止や人権について考える時間が増えた。
- ・クラブ活動での活動内容等、パワーポイントを使用して説明をしてもらうことで、情報の把握などがスムーズに行えた。
- ・参加者が積極的に発言できるような雰囲気作りなど、進行役としてのスキルアップを図る必要が

有だと感じている。

8 まとめ

- ・今年度は2名の職員の異動があり、5月には新規採用の職員、また12月で退職される職員もいた。利用者の方への影響もさほどなく、穏やかに過ごしている日が多かった。
- ・午前のクラブ活動は、活動係主導の元にいろいろな新しい取り組みなどを行い、利用者の可能性を見出す活動になったクラブもあった。
- ・午後の活動においては、ウォーキング等の運動を取り入れることが多かった。ウォーキング量は前年度よりも増えたように思うが、健康維持の為に質の高い運動を行えるようにする必要がある。
- ・今年度は、手洗い、うがい、マスクの着用など予防策を講じた効果もあり、グループ内での感染症発生もなく過ごすことが出来た。

(塚本博志、高場修治、渡邊 武、魚見敏満、竹間和輝、菅原献司
今田弘之、佐々木優希、掛川陽介、川本亜由美、土橋羅夢)

5 医療

1 バイタルサインのチェック、症状のチェック、経過観察

- ・日々、利用者の健康状態の把握、異常の早期発見、重症化予防に努めた。
- ・健康状態に異常がみられた場合は必要に応じて、バイタルサイン、症状の観察をより注意深く行った。
- ・高血圧治療中の利用者は、症状や経過にあわせ定期的に血圧測定を実施、血圧変動の把握と医師への報告、指示変更に対応した。
- ・水中毒、悪性症候群に対する早期対応のため、リスクの高い利用者のバイタルサイン、体重変動の観察を行った。
- ・脂質異常症、肝機能障害、腎機能障害、糖尿病、貧血に対して症状の観察を行い、異常が認められた時は、医師へ相談、早期対応を行った。

2 受診判断と受診、治療、処置の実施について

- ・突然の怪我や病気については、①経過観察②医師へ報告③緊急受診等、最善の対応を速やかに判断し、必要な調整と対応を行った。
- ・定期受診（内科、精神科、整形外科、歯科、眼科、耳鼻科、皮膚科）に関しては、症状と状態に合わせて、定期的な受診引率と受診調整を行った。
- ・学園内で行う処置を行う場合は、医師の指示があるものは医師の指示どおり実施し、安全、清潔に努め処置を行った。

3 与薬管理、医薬品管理、医療機器管理について

- ・各利用者に処方されている薬の薬事情報は常に最新へと更新し、内服薬の把握と管理に努めた。
- ・内服薬のセット時には常に薬事情報と相違ないか確認を行い、正確な内服管理に努めた。
- ・薬の取り扱い時は常に看護師二人でダブルチェックを行い、徹底した管理を行った。
- ・錠剤は分包機を活用、可能な薬を一包化することで、正確で効率良い与薬業務と誤薬防止を図った。
- ・調剤薬局でも一包化可能な薬については、引き続き一包化を依頼した。

- ・定期的に医務室内の医薬品、医療機器の管理、点検を行い、必要時や緊急時にスムーズに使用出来るよう努めた。
- 4 フットケア、スキンケア
- ・入浴後は全員に保湿ローションや保湿クリームを塗布し、症状や季節に応じたスキンケアを行った。
 - ・特に皮膚の状態が悪い利用者については、症状に応じて個別にスキンケアを追加、症状の改善を図った。
 - ・確実にスキンケアが実施出来るよう、各グループ毎に必要な物品の準備、補充、指導を行い、スキンケアに必要な物品の管理を行った。
 - ・うおのめのある利用者については、皮膚科医指示のもとスピール膏処置を実施し継続的にケアを行った。
 - ・症状が強い場合は早めに皮膚科受診を行い、適切な薬の処方を受け症状の改善に努めた。
- 5 口腔の健康、口腔ケア、歯科受診について
- ・毎週火曜日に3～4名ずつ子鹿医療療育センター歯科受診を行った。
 - ・生活支援員による毎食後の歯磨き支援と、各利用者、毎月2回ずつ口腔ケアチェックシートを活用した口腔観察を行い、異常の早期発見に努めた。
 - ・口腔内の異常が発見された場合は、歯科への相談、受診の調整を行った。
- 6 難病対策
- ・定期受診、内服管理、体調管理に努め、症状の出現や変化に注意した。
- 7 肝疾患対策
- ・肝臓、慢性B型肝炎フォローのため、必要な定期受診、内服管理を行った。
 - ・定期健康診断の採血結果より医師の指示のもと、管理栄養士と連携、必要な利用者へ肝臓病食の提供を行った。
- 8 がん対策
- ・定期受診、内服管理、体調管理に努め、症状の出現や変化に注意した。
- 9 感染症予防について
- ・年間を通して標準予防策の実施、冬季感染症への対策を徹底した。
 - ・感染症流行時期は、面会、外出、外泊時には感染症予防への各対策を実施、ご家族へも感染症予防へ対して、説明と協力をお願いした。
 - ・年間を通して発熱や嘔吐等の症状に対しては、症状に応じた罹患者の隔離、簡易検査の実施、医師への相談、受診を行った。
 - ・広島県感染症、疾病管理センター（ひろしまCDC）から発令される情報を日々確認し、職員への情報提供や業務内容の変更、その他必要な予防策や指示を行った。
- 10 自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、行動障害、強度行動障害の治療と看護について
- ・症状が不安定な利用者については担当者で早めに対応を検討し、必要に応じて医師への相談を行った。
 - ・変薬、増薬への対応や、症状の観察に努めた。
 - ・精神科定期受診中の利用者については、定期的な受診と精神科担当医へ症状の報告を行い、さらに症状の強い場合は臨時受診などの調整を行った。
 - ・入院治療が必要と判断された場合は、入院調整や退院調整を行った。
 - ・変薬などの治療方針の変更時には、その都度ご家族へ報告を行った。

- ・問題行動に対しては関係部署と連携し、常に支援方法や環境設定などについて話し合い対策を行った。
- ・突発的な怪我やてんかん発作時の症状に対して、必要な処置や病院受診を行った。
- ・てんかん発作の有無、程度、回数を観察し、医師への報告、変薬等の指示に対応した。
- ・薬物血中濃度採血対象者35名に対し、半年に1回ずつ定期採血を実施し、医師へ検査結果の報告を行い、再検査や変薬等の指示に対応した。
- ・常に利用者の様子に変化がないか、些細な変化も注意深く観察し、利用者の異常の早期発見に努めた。

1.1 定期健康診断、生活習慣病予防健診、健康増進、介護予防の実施

- ・利用者70名に対して、定期健康診断、歯科健診を行った。
- ・利用者定期健康診断は医師の指示のもと、採血、心電図、胸部レントゲン、検便（便潜血、微生物、虫卵）検尿、BMI、身長、体重測定、視力検査、聴力検査を行った。
- ・定期健康診断で異常の指摘があった利用者は、医師の指示のもと再検査や病院受診を行い、また医師や管理栄養士と連携し、療養食（脂質異常症食、肝臓病食等）の提供や健康の維持、管理に努めた。
- ・職員生活習慣病予防健診結果を産業医へ報告し、産業医の指示があった場合は各職員へ通知した。
- ・労働安全衛生法に基づく、職員健康診断（雇入時、34歳以下健診、深夜業務従事者健診）の準備、実施、産業医への報告を行い、職員の健康増進への働きかけを行った。
- ・全職員へ対して、アルコール使用障害同定テスト、ニコチン依存度チェック（FTND法）を実施した。

1.2 感染防止、医療安全、医薬品、医療機器管理等ガイドラインの作成と実施、評価

- ・新たなガイドラインの作成はなかったが、感染防止策や医薬品の取り扱いについては、状況に応じて必要な見直しや検討を行い、関係部署へ周知し対応した。

（櫻井永子、畠原由美、山岡由佳）

6 栄養食生活

1 はじめに

利用者に安全な食事を提供するように衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、また家庭的な雰囲気が出せるように多彩な強化磁器食器を使用し、個々に応じた細やかな配慮のある食事作りに努めた。また彩りや盛り付け等にも配慮して提供した。

2 栄養量

生活活動強度は「やや低い」を用い、常食の目標量と実質摂取量は次の表のとおりであった。

	目標量	実質摂取量
エネルギー（kcal）	2,350	2,369
たんぱく質（g）	76.0	79.2
脂質（g）	56.9	64.1
カルシウム（mg）	600	635

鉄	(m g)	7.5	10.7
ビタミンA	(I U)	2,500	2,658
ビタミンB 1	(m g)	1.11	3.45
ビタミンB 2	(m g)	1.23	1.26
ビタミンC	(m g)	100	138

3 栄養ケアマネジメントの実施

障害があっても利用者が自立して快適な日常生活を営み、尊厳ある自己実現をめざすためには利用者一人ひとりの栄養健康状態の維持や食生活の質の向上を図ることが不可欠であることから、個別の栄養健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを利用者全員を継続実施し、アセスメント、栄養ケア計画書の作成、実行、3か月毎の再スクリーニング、モニタリングを行い、栄養健康状態の維持や食生活の質の向上に努めた。

4 療養食

糖尿病食・肝臓病食・胃潰瘍食・脂質異常症食・痛風食・腎臓病食・貧血食を利用者の病状に応じて提供した。

5 食事形態

常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者の状態に応じて提供した。

6 真空調理 凍結含浸調理

真空調理：真空調理で汁物の具、煮物等を作成し、少量の調味料で調理、少数の職員でも複雑なメニューを提供できた。

凍結含浸調理：肉や野菜を柔らかくする酵素を使い、見た目は常食と同じ形態でも中まで柔らかく、咀嚼が少なくても食べていただけるように、刻み食・ペースト食に提供した。

7 誕生日お祝い

利用者誕生日には、お祝いとしてコーヒーゼリー、豆乳プリン、豆乳コーヒープリン、マンゴープリン等デザートを作成し提供した。

8 間食

間食は、全グループ統一して午後に提供した。

月1回月末には、手作り間食を提供した。

4月：「二色いちごババロア」 5月：「豆腐レアチーズケーキ」 6月：「サイダー割梅酒ゼリー」
7月：「ビールゼリー」 8月：「ずんだもち」 9月：「南瓜ケーキ」 10月：「スイートポテト」
11月：「大学芋」 12月：「ぜんざい」 1月：「パンプディング」
2月：「煮りんご入り米粉カップケーキ」 3月：「コーヒープリン」

9 正月料理

元旦昼食に雑煮、元旦から3日昼食は重詰め風にして、お節料理を提供した。

7 事務

1 目標

- ①事務の正確かつ迅速な処理を行い、学園内外の連絡調整を緊密にし円滑化する。
- ②外来者に対して常に明るく笑顔で接し、適切且つ迅速な応対に心がける。
- ③電話対応では明確な応対に心がけ、速やかにかつ丁寧に対処する。
- ④必要な情報の共有と公開を積極的に行い、円滑な事業の推進に寄与する。

⑤OA機器の活用を推進し、業務省力化を図る。

2 内容

①事務

・ 支援費の請求、窓口での受付、入退所手続き、療育手帳・保険証・重度障害者医療受給者証・自立支援医療受給者証の管理、各種印刷物の作成、行政機関との連絡調整、その他

②庶務

・ 文書收受・発送、福利厚生、パソコン・プリンター・コードレスホンの管理、その他

③経理

・ 財務会計処理、利用料等の請求、親の会会計、親睦会の会計、物品購入、職員給与計算、調査統計、出張命令稟議書の作成、その他

3 まとめ

上記の業務については社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を基本として日々行った。これからも原理原則を基本に、利用者、利用者家族、職員に信頼され、厳正でかつ平等に日々遅滞なく確実に遂行していきたい。

(高田孝康・清政圭子)

8 防災管理

1 目的

- ・ 災害発生時は、速やかで適切な対処となるよう危機管理体制を充実させる。
- ・ 消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を積む。
- ・ 緊急時への対応能力向上を図る。

2 新任職員対象の防災研修会の実施

1) 研修内容

①利用者不明時の対応

日勤帯、夜勤帯の連絡方法など・施設個所の確認・危険物の取り扱いと理念

日常的な利用者の所在確認と注意事項

②消防関係：「防災マニュアル」を資料として基礎知識を習得

消防設備及び施設設備を実地見学

③AED、人工呼吸器、吸引掃除機の設置場所、操作説明

3 緊急時の対応

「吸引掃除機」を食堂の手洗いの下に、いつでも使用出来る状態で保管、点検を随時実施。

「人工呼吸器ユニット118番」と「AED」は職員室と医務室に各1台ずつそれぞれ常置。

4 毎月消防訓練実施

①夜間想定総合訓練 5月・6月・7月・8月（消防署3名立ち会い）・10月・11月・12月
2月・3月

②昼間の総合訓練 4月・9月・1月

※毎月消防訓練実施結果記録票を記載し保管した。

8月、2月 消防署へ消防訓練実施計画書・結果報告書提出

5 新任職員防災研修：4月2名、9月2名、10月1名、3月1名

6 消防設備定期点検：9月、3月 専門業者に委託し実施

7 消防署立入検査：5月21日（月）2名来園 … 指摘事項なし

8 その他

- ・ヘルメットにライトを装備：グループ日誌のチェック項目にライトの点灯を追加、防災日誌のチェック項目(宿直室)にライトの点灯を追加した。
- ・火災通報機器操作訓練：7月5日～11日の期間、職員全員対象で事務室での操作訓練音響停止や受話器を取ることを行った。
- ・拡声器「パワギガE」を、各部署と宿直室のヘルメット設置の所にそれぞれ常置した。
- ・避難訓練について、各部屋の確認後、鍵は全施錠していく事にした。
- ・火災ベルが鳴ってからの動きについて火災受信機のある7箇所に貼り付けた。

内容 ①警戒区域番号確認 ②一斉メール送信ボタンを押す ③拡声器装着、電源ON
④ヘルメット装着、ライトON

(宮崎静美)

9 安全運転管理

1 目標

- ・交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する。
- ・車輛の点検、整備を実施し車輛の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意する。

2 内容

- ・トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加
- ・安全運転管理者講習会への参加
- ・安全運転啓発の図書等を掲示
- ・ドライブレコーダー車両後部に取り付け
- ・各季の交通安全運動の周知
- ・車輛の点検、整備を業者に依頼

3 まとめ

- ・トライザセーフティinひろしまへ参加した10チーム中9チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。前年度より達成チームは増えたが、全チームの目標達成は今年度も出来なかった。日頃よりトライザセーフティへの意識付けをしっかりと行うと共に安全運転の徹底を図り、全チーム目標達成が出来る様にしたい。
- ・定期的な車両点検は元より、日々の確認を確実に行うことで、いつでも安全に車輛を使用出来る状態にしておく。

(塚本博志)

10 危険物取扱者

1 概要

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行っている。

2 内容

毎月、掲示板、漏油検知管、通気管、消火器の有無等の点検を行った。

(後田喜代子)

11 運営会議

実施概要

- ・園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催し協議した。
- ・会議では、利用者主体の指針を見失わないように、問題提起、課題検討、日程調整等を行い、施設のより円滑な運営と利用者サービスの向上を目指した。
- ・資料など、紙は一切使用せず、プロジェクターを利用して、随時必要な情報はインターネットからも収集し会議を進めた。
- ・会議後は速やかに会議録をまとめ、即日、全員に周知した。

(高田孝康)

1 2 支援部課長会議

実施概要

- ・支援部長と支援課長の4名で構成し、毎月、月末に翌月の運営会議開催日までに会議日を設け、予定調整や利用者支援について意見交換、情報を共有し利用者サービスの向上を目指した。
- ・他部署との連絡事項、取り組みの見直しや検証、マニュアルの更新等について協議した。
- ・会議の経過及び結果は会議録を作成し、業務の統一を図るため全員に周知した。

(久保宏子、藤田由香里、塚本博志、宮崎静美)

1 3 サービス担当者会議

実施概要

・ケース担当者、グループ課長、看護課長、栄養課長、サービス管理責任者、子鹿障害児等相談支援事業所相談支援担当者の6名で構成、毎月中旬以降12名前後の方を対象に実施。

・県外利用者担当:サービス管理責任者(高田孝康)、県内利用者担当:サービス管理責任者(宮崎静美)

・半年毎に各利用者さんの会議を設け、モニタリングとサービス内容について協議した。急遽変更等あった場合は必要に応じ会議を追加した。

・会議日の調整、ご家族の参加があるときには時間延長が可能となるように配慮した。

・会議開催日が決まると、対象となる利用者さんのご家族へ事前に電話で案内し、参加の有無やご意見、ご要望等を聞いた。

・11月より「会議開催日」の案内方法を電話から文書に変更。月初めに送付し返事をいただいた。

・施設障害福祉サービス計画書作成後には、各ご家族に送付し計画書の承諾を得た。

4月～11名対象:ご家族参加1件 5月～12名対象:ご家族参加2件

6月～11名対象:ご家族参加4件 7月～11名対象:ご家族参加3件

8月～12名対象:ご家族参加4件 9月～13名対象:ご家族参加5件

10月～11名対象:ご家族参加1件 11月～12名対象:ご家族参加2件

12月～11名対象:ご家族参加3件 1月～12名対象:ご家族参加4件

2月～12名対象:ご家族参加3件 3月～12名対象:ご家族参加2件

・ご家族と連携を取りながら利用者さんの想いに寄り添ったサービス支援に努めた。

(高田孝康、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、後田喜代子、櫻井永子、宮崎静美)

1 4 朝礼

実施概要

・参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。

・開会挨拶、服装と身嗜みのチェックから始まり、各グループ、全体係、その他からの報告、予定な

- どの報告、出勤職員の体調状況の報告、笑顔の練習、最後に閉会挨拶で終了する。
- ・毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った。
- ・発表者の声の大きさやマイクの位置などを再確認し、さらに聞き取りやすい環境を整えていく。

(高田孝康)

1 5 園内行事

- ・一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として学園内で計画実施した。

1 ワックス掛け

日時 平成30年5月2日 水曜日

レインボー→はなまるの順で掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインした。雨天だった為、物品は施工しない居室に移動した。

(利用者さんの動き)

はなまる：外出 レインボー：センターでレクリエーション トライアングル：通常日課

2 活動披露会

日時 平成30年5月8日 火曜日 14時00分～15時15分 場所 多目的棟、畑

各グループ活動の報告後、グループ順に「安納芋の苗植え」「植菌」「木工づくり」「薪割り」体験。終盤全グループ体験が終わり天候が急変して寒くなり雨が降り出したため、はなまるグループのみ多目的棟で他のグループは生活棟に戻り全員にジュースが配られた。

3 ミニレク祭

日時 平成30年6月11日 月曜日 13時30分～15時45分 場所 療育センター

グランドゴルフに関係したゲーム、輪投げやボーリングゲームをセンター内会場に設置して皆さんに楽しんでいただいた。ほぼ全員がどれかの競技に参加された。ゲーム終了時には大作業室にてお菓子が配られた。

4 ボランティア演奏会

日時 平成30年6月17日 日曜日 13時30分～14時30分

- ・琉球国祭り太鼓、広島支部、総勢11名を迎えボランティア演奏会を多目的棟で開催。
 - ・ボランティアの方にはセンター宿泊室を控え室に、楽器は行事倉庫に置いてもらい対応した。
 - ・親の会行事、茶話会終了後に演舞25分程度、曲紹介等で30分程の演奏会だった。
- 会場は和やかな雰囲気、落ち着いて演舞を鑑賞でき、立ってにこやかな表情で身体を動かされる利用者さんもおられた。

5 ワックス掛け

日時 平成30年7月27日 金曜日

職員室→食堂→トライアングル→管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

(利用者さんの動き) トライアングル：外出 レインボー、はなまる：通常日課

6 物故者追悼式

日時 平成30年8月10日 金曜日 10時15分～11時00分 場所 療育センター・プレイルーム

物故者紹介、黙祷、追悼の言葉、献花、献歌、閉会。物故者の紹介では、参加者全員、最後まで、

亡くなった方を偲び追悼する事ができた。献花した花は追悼式後、ともえ会のお墓にお供えした。

7 ワックス掛け

日時 平成30年8月13日 月曜日

レインボー → はなまるの順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

・利用者さんの動き トライアングル、レインボー：通常日課 はなまる：外出

8 収穫祭

日時 平成30年10月18日 木曜日 10時00分～15時00分 場所 畑、センター多目的棟

午前中はグループごとに芋掘りを行い利用者さん全員に芋を収穫してもらい、午後より収穫祭開催。収穫した野菜の紹介と榊奉奠が行われた。御神輿披露、御神酒としてハーブティーが提供された。

9 ワックス掛け

日時 平成30年10月24日 水曜日

食堂→トライアングル→食堂前廊下→管理棟便所→管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

・利用者さんの動き トライアングル：外出 レインボー、はなまる：通常日課

10 文化祭

日時 平成30年11月8日 木曜日 10時10分～15時00分 場所 療育センター

午前中は、太極拳見学と体験、フォトカード作りと写真撮影、茶道鑑賞の各ブースを、グループ順に回りながら体験し楽しんでいただいた。

午後は、2箇所にカフェスペースが設けられ2種類の間食を楽しんでもらった。プレイルームでは、アニメ上映があり楽しんでいただいた。

11 作品展示会

日時 平成30年11月11日 日曜日 13時30分～14時30分 場所 療育センター

各グループで作った作品（トライアングル：モザイクアート、レインボー：万国旗、はなまる：タイルアート、個人作品、写真撮影用の作品）、木工クラブで作った物、フラワークラブ、書道クラブの作品をセンター一階廊下に展示。親の会例会終了後、利用者さんにご家族に見学をして頂いた。

12 餅つき

日時 平成30年12月28日 金曜日 10時00分～14時40分 場所 療育センター・プレイルーム

グループ別に餅つきを実施。午前中は、はなまるグループとレインボーグループ、午後はトライアングルグループの順だった。沢山の利用者が餅つきや餅もみの体験をされた。出来上がったお餅は、午後の間食でぜんざいとして提供された。後日、元旦のお雑煮と、とんどでも提供された。

13 職員年賀式

日時 平成31年1月7日 月曜日 9時～9時5分 場所 ともえ学園 職員室

新年を祝い、一年の健康と多幸を祈念した。演台側を正面とし全員正面に向かって並び整列し朝礼前に次長の進行により開会。

一同礼の後、園長の年頭の挨拶、年男、年女3名の職員による今年の抱負。最後に新年を祝い、ぶ

どうジュースで乾杯した。

14 利用者年賀式

日時 平成31年1月7日 月曜日 10時00分～11時00分 場所 療育センター・プレイルーム
年男6名の利用者さんは正装され前席に着席、園長より年頭の挨拶、年男の方紹介、年男代表者挨拶鏡開き、甘酒で乾杯、各グループの抱負を課長から発表、新たな一年のスタートとなった。

15 とんど

日時 平成31年1月14日 月曜日 10時10分～11時30分 14時10分～14時45分 場所 駐車場裏
係長の挨拶により開始、年男7名の利用者さんにトーチを持って頂きとんどに点火。利用者さんは、しばらくとんどの火を見学。午後より食堂で、とんどの熾火でお餅を焼き提供された。

16 活動報告会

日時 平成31年3月15日 金曜日 10時00分～16時00分 場所 センタープレイルーム
グループ別に行事は執り行われた。活動係によりパワーポイントでの本年度の決算報告とスライドにて写真を見ながら一年間を振り返った。間食には桜餅が利用者の皆さんに提供された。

(宮崎静美)

1 6 対外行事

他施設や地域の方々との交流や親睦を図りながら、地域社会の理解を深める事を目的に実施。

1 広島県西部地区知的障害関係施設親善球技大会

日時 平成30年5月20日 日曜日 場所 吉田運動公園

球技大会へは審判として職員2名が参加した。

2 2018障害者フライングディスク競技大会inみよし

日時 平成30年8月26日 日曜日 8時50分～15時00分 場所 みよし運動公園テニスコート

参加者 利用者12名 支援職員6名

結果 50代の部: 1位(1名) 40代の部: 2位(2名)、3位(1名)

20～30代の部: 1位(1名)、2位(1名)

競技後、ビンゴ大会があり全員が参加された。

(宮崎静美)

1 7 外泊

1 ご家族からの連絡で、希望日を受け付けて外泊を実施した。

外泊については全体へ周知後、外泊経過票・薬袋・外泊時のご家庭用連絡用紙・外泊時特記連絡事項票を作成、事務室掲示板に外泊期間記入、随時外泊一覧表記入、スケジュール記入を随時行った。変更があった場合は、全体周知及び各用紙記入変更、一覧表やスケジュールを変更した。

2 外泊件数(月を挟んでの外泊は、外泊終了月を数に含む)

4月16件、5月26件、6月13件、7月12件、8月22件、9月13件、10月14件 11月13件、12月9件
1月19件、2月10件、3月13件

3 療育センター宿泊室利用件数

4月1件、5月1件、7月1件、8月1件、10月1件

(宮崎静美)

18 虐待防止委員会

内容

- 1 「虐待防止のための計画づくり」…虐待防止の研修や、マニュアルやチェックリストの作成と実施、掲示物等ツールの作成と掲示等の実施計画づくり。
- 2 「虐待防止のチェックとモニタリング」…虐待防止の取り組みの実施プロセス
虐待防止チェックリスト、個々の支援体制の状況（課題）、発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況等の現況を踏まえて、どのような対策を講じる必要があるか具体的に検討し、職員への研修計画や各部署の職員が取り組む改善計画に反映させ、虐待防止マネジャー（部課長）を中心とした各部署での具体的取り組みを指示。
- 3 「虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討」…虐待や疑いが生じた場合、行政の事実確認を踏まえて施設で事案を検証の上、再発防止策を検討し、実行に移す。

まとめ

・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

・各部署での具体的な取り組み方法を策定していく。

（前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、櫻井永子、後田喜代子）

19 人権委員会

1 年間目標

- ・利用者、職員同士に於いても人権侵害、暴力、暴言は絶対に行わない。
- ・差別的な言動、体罰を用いた支援は絶対に行わない。
- ・礼節ある言葉遣いとプライバシー保護への配慮をする。
- ・専門職間の相互支援による孤立の予防。（より開放的にして関わる）

2 重点目標と具体的事例

5月6月【柔らかな言葉を心掛ける】相手の気持ちを考えた言葉

7月8月【利用者さんの立場に立って支援を行う】利用者さんへの支援中は不要な私語は慎む

9月【プライバシーに配慮して更衣の支援を行っているか】トイレ後の適切な更衣を行う

10月【プライバシーに配慮して更衣の支援を行っているか】適切な衣類を着用

11月【優しく丁寧な言葉使いで支援がおこなわれていますか】食事場面での言葉使い

12月【優しく丁寧な言葉使いで支援がおこなわれていますか】良い場面を見つけ褒めあう

1月【利用者の方をほめる】利用者の方の色々な拘りを肯定的にとらえてほめる

2月【利用者の方をほめる】利用者、職員の良い所を褒める

3 実施内容

- ・目標と具体的な事例を挙げて振り返りを毎月、月始めに人権委員会会議で協議し人権意識を高めた。
- ・人権に関して身近な具体的課題を出し合ったり、職員から出た意見他協議し全員へ周知した。
- ・人権相談の実施。

人権委員会メンバーが窓口になり人権相談や人権問題に取り組んだ。相談事が出た場合や問題点は随時、人権委員会で取り上げ検討や解決に向けていけるように声を掛け合った。

- ・人権擁護啓発活動の実施

管理棟職員室にポスターを掲示。人権啓発ポスター掲示計画書・報告書の提出を行った。

5、6月…（福永） 7、8月…（桑田） 9、10月…（掛川） 11、12月…（奥田）

1、2月…（宮崎）

3 まとめ・今後の課題

毎月人権に関わる目標を掲げ全体で取り組むように各部署へ発信した。翌月には人権委員会会議で各部署の振り返り意見を出し合い協議をした。繰り返し目標を発信し振り返ることによって人権意識の向上へ繋がった。

（福永真也、桑田樹実、掛川陽介、奥田崇喜、宮崎静美）

20 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。

サービスの向上に繋がる取り組みなどを随時、運営会議や支援部課長会議に提案を行った。

（高田孝康、宮崎静美、後田喜代子、福永真也、荒瀬好司、渡邊 武）

21 危機管理委員会

実施概要

施設において発生又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に迅速且つ的確に対処するための体制を確立し、利用者及び職員の安全確保を図るとともに、施設の社会的責任を果たすための検討。

1 危機に対する対応

- ・危機の発生を想定し、発生時の対応マニュアルの策定と見直し、予防体制の構築。
- ・危機が発生した場合、利用者の安全を確保するための適正な応急措置へのマニュアル、迅速な対応と的確な対処に向けての検討と定期的な見直し。

2 危機別の計画及び対応

- ・防災計画より自然災害、天変地異・火災・感染症等・不審者、侵入者、犯罪等について話し合った。危機に対する対応について種別に確認や検討を行うとともに、防災の取り組みや備え他について議題に取り上げていった。

3 まとめ

- ・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で毎月定例の運営会議の時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

（前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、後田喜代子）

22 衛生委員会

実施概要

- ①健康障害の防止、健康の保持増進対策の検討。
- ②労働災害の原因及び再発防止対策の検討。
- ③健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項の検討。

毎月1回、5名の委員で開催した。会議後は速やかに会議録をまとめ、全員に周知した。

（高田孝康、吉長成恭、櫻井永子、畠原由美、河合淳雄、藤井佑紀、渡邊 武、山縣圭子）

2 3 活動係

1 目的：活動の企画、運営を行う。

療育センター、学園周辺の清掃、環境整備を行う。

2 内容

- ・学園周辺の草刈り（草刈りを行う）
- ・FOXの管理（作品の販売、清掃）
- ・遊歩道整備と管理（景観も考慮し安全に散歩ができるように倒木の伐採や草刈りを行う）
- ・山の管理（下草や枝木の切り落とし）
- ・日中活動の企画運営

3 まとめ・反省

- ・日中活動は空き缶つぶし、薪作り、木工作業、衣類畳み、清掃作業を行った。はなまるは職員1名に数人の利用者を担当し小グループで落ち着いた環境で活動に参加出来る環境が出来た。
- ・環境整備では夏季随時草刈り等を行い、遊歩道は間伐作業を進め景観に配慮し整備を進めた。間伐した資源は薪や椎茸の原木に利用し活用した。
- ・椎茸栽培や野菜作りなども継続し、乾燥椎茸や野菜はご家族に販売した。
- ・FOX販売は薪を中心に木工作品、野菜や苗等の販売を行った。薪の需要は一定の地域住民からあり、木工作品も購入していただき多数の方に利用していただいた。
- ・他のグループはウォーキングを中心としたメニューで晴天時は原木や枝木運びをしてもらったが、大人数で細かな配慮が行き届かなかった。利用者の特性に沿った内容の活動を考えて行きたい。

（魚見敏満、林 宏典、中野基行）

2 4 運動マシン

1 目的：メニューの企画とマシンの保守管理

2 内容

- ・運動マシンの、トレーニングルームの環境整備と保守点検。
- ・利用者さんの運動マシンを活用する為、施策を講じて行う。

3 課題・まとめ

- ・各グループの係の職員の判断で行ってもらった。
- ・ここ数年の夏季外気温上昇による、利用者さん移動減少の影響があった。
- ・各グループでの日課と兼ね合いで、トレーニングへの興味喚起が上手く行えず、年間を通しての活動は出来ていなかった。
- ・運動マシンに対する職員や利用者の理解度が低く、有効利用が出来なかった。
- ・拒否や興味が続かないなど、マシントレーニングの実施自体が難しかった。利用者の多くが興味が無い事と続かない事とあわせて、効果的に実施する為の工夫が必要だった。

（中野基行、上川清美、竹間和輝）

2 5 健康体操

1 目的：専門の講師に身体を動かす事について教えて頂き楽しみながら健康維持につなげる

体操をする。身体を動かすことの喜びにつなげる。同じ環境や雰囲気での運動の場を提供し、声掛けにより利用者の変化や好み等を観察していく。

2 内容

講師：河原田聡美氏

日程：毎月１回 第二土曜日の午前を基本に講師と話し合いの上、日程を決定した。

3 実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	1 4	1 2	9	1 4	4	1	1 3	1 7	8	2 6	2 3	2 3

4 課題、まとめ

- ・はなまるグループは職員が選んだ曲に一年を通して利用者さんが振りを付ける取り組みを行う。多数の利用者さんが積極的に参加し、体操は完成した。トライアングルとレインボーは講師がその日の利用者の様子、雰囲気等で行う内容を変え、ウォーキングやストレッチ、音楽に合わせた踊りなどを行った。参加出来る利用者も少しずつ増えてきている。また例年通り、三次福祉祭りに参加した。
- ・課題としては、楽しく運動することで張り切りすぎや、骨折や捻挫の危険性があるので職員が危険の無い運動できる状態で支援する。また参加しにくい利用者が少しでも興味のもてる内容を提供して行く。福祉祭りの参加をゲストとしてではなくともえ学園として参加したいという意見もある。

(藤本将太郎、福永真也、菅原献司)

2 6 入浴

1 取り組み

- ・利用者が安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

2 内容

- ・シャンプー、ボディソープ、バスマジックリンなどの資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎月第3土曜日の午前に、各グループから一人出て浴室内外の清掃を行った。年間を通して清掃場所を決めて、実施した。
- ・入浴支援担当表を作成しスムーズな職員配置を組んだ。また、勤務変更があった場合は随時変更し病院受診などの急な職員不足にも対応できた。
- ・体調不良の個室対応の利用者がいた場合、入浴時間の変更を行い感染防止に努めた。
- ・バスタオル、洗体用タオル、職員用タオルを更新した。古いバスタオルは床拭き専用雑巾として、職員用タオルは雑巾として再利用した。
- ・掃除道具の更新を行った。
- ・足ふきマット、浴槽に敷くマットを更新した。
- ・浴室内の棚が古くなっているので、更新した。

3 経過・課題

- ・資材等の発注ではボディーソープ、シャンプー、洗剤等が少なくなると係で声を掛け合い不足することはなかったが、全体で補充できる備品等の連絡が十分ではなく、間に合わなかった事があったので、更新の際は全体に連絡することを徹底したい。
- ・備品の破損等の点検を定期的に行う必要がある。

(堂西美保、圓藤久明、佐々木優希)

2 7 洗濯

1 取り組み

- ・利用者の衣類等の洗濯をスムーズに行えるよう、洗剤等必要な物が不足しないように補充する。
- ・洗濯室を衛生的に保持する。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機等が故障しない様点検する。

2 内容

- ・洗濯洗剤、柔軟剤、ソフランシート、酸素系漂白剤、汚物洗濯機用洗剤類等の資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎週日曜日の午前は、早出職員が洗濯物畳みの後、洗濯室内の清掃を行った。
- ・雑巾の作成を行った。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機の点検を適宜行った。

3 経過・課題

- ・汚物処理洗濯機が2台ある事で汚物洗濯がスムーズに行えた。また夜勤リーダーによる、汚物の洗濯畳みをすることで、洗濯物が夜間に溜まることが無くなった。
- ・夜勤リーダーがシーツ類を片づけることで、シーツが溜まらなかった。
- ・洗濯室の床の掃除時間の確保と衛生的な環境作りが必要。
- ・前年度、洗剤による撥水効果で水分を吸わなくなっていたが、洗剤を戻すことで解決した。
- ・洗剤の在庫確認をしっかりと行い、在庫が無くなることも無かった。
- ・ボランティアの方にも協力してもらい、タオルを再利用した雑巾を作成した。今後も継続的に実施する。

(桑田樹実、山地恵子、土橋羅夢)

2 8 寝具

1 内容

- ・毎週火曜日までに寝具の発注用紙を記入。
- ・火曜日に寝具の搬入があり、その後その月の係が在庫の確認と調整をする。
- ・各グループへの在庫枚数の確認をし、リネン庫入口より左の棚に置く。
- ・在庫を確実にする為に在庫は最低限にする。リネン台帳を作りリネン室に置く。
- ・布団やシーツを汚した利用者についてはリネン台帳に名前を記入し、寝具を持ち出す。
- ・定期的にリネン庫の掃除を行う。
- ・不潔リネン室に、業者より麻袋を置いてもらい土曜日に回収してもらう。
- ・血液・便の付着した掛・敷布団・毛布は洗わずに小さく丸めて黒ナイロン袋に入れて出し、回収してもらう。便の付いた物については便が付いていることを紙に書き、業者に分かるようにナイロン袋に入れておく。
- ・感染症に関わる汚染物が付着している場合黒色ナイロン袋に入れ袋に詳細を記入する。
- ・5月に掛け布団から毛布に、10月に毛布から掛け布団に変更。
- ・定期的に汚れている寝具を取り替える。

2 反省

- ・係で協力し、シーツの用意を行う事が出来た。
- ・火曜日までに発注用紙に記入しておらず業者から電話を頂く事があった。

- ・帳簿が未記入で在庫との違いが見られた。
- ・便汚染などの汚れの布団も適切に処理し、業者へ回収してもらう事が出来た。

(熊澤誠治、山地恵子)

29 営繕

1 目的

- ・依頼があれば、迅速、安く、丁寧に対応する。
- ・生活しやすい環境を整え整理整頓する。

2 主な実施内容

4月

- ・トライアングル倉庫、トイレの換気扇掃除
- ・エアコン3か月毎の簡易定期点検
- ・306号室ドアノブ交換
- ・512号室壁修理
- ・食堂前長椅子修理
- ・1通り突きあたりドア点検

5月

- ・女性入浴室の清掃、2、3通りの中庭清掃
- ・404・410・505・602・605・609・707・712・トライアングル洗面室・グループ間境ドア2箇所・
レインボー職員室ドアクローザー交換
- ・ムカデカダン散布
- ・センター物品倉庫片付け
- ・1～7通り奥のサッシレール清掃
- ・201号室ドアクローザー調整
- ・雨樋清掃

6月

- ・換気扇掃除（はなまる：トイレ2箇所、洗面所2箇所、リビング、職員室）
（レインボー：リビング、職員室、トイレ2箇所、5通り洗面所、シャワー室）
（トライアングル：レインボー側洗面所、リビング、女性棟トイレ、職員室）
脱衣場、食堂2箇所
- ・5通りトイレ倉庫排水詰まり除去
- ・106号室、洗面室1、トライアングルトイレのドアクローザー調整
- ・トライ、レインボー境ドアストッパー取り付け
- ・食堂、古土井さん席近くの壁修繕
- ・512号室 サッシ調節
- ・4通り廊下壁修繕

7月

- ・エアコン定期点検、フィルター交換・清掃
- ・トライ、トイレ洗面センサー交換
- ・洗面室1（手前2番）点検又は交換

- ・ 403号室前、壁紙貼り替え
- ・ 711号室壁紙補修

8 月

- ・ 408号室前廊下壁紙補修
- ・ 401号室壁紙補修
- ・ 410号室、壁補修
- ・ 205号室、窓鍵交換
- ・ はなまるリビング壁補修
- ・ 608号室、壁補修

9 月

- ・ 換気扇掃除
- ・ 生活棟内壁紙補修、穴補修
- ・ トライアングルトイレ、トライ洗面所、女性棟洗面所の水道配線修理
- ・ 医務室シンク下扉修理
- ・ 厨房ドア修理・蛍光灯交換

10月

- ・ 生活棟壁（711号室、はなまるリビング前廊下の壁）補修
- ・ 生活棟網戸掃除
- ・ 洗濯室、回転窓の網戸清掃
- ・ エアコン定期点検
- ・ 加湿器フィルタ清掃
- ・ 702号室のドアクローザー交換
- ・ 107号室のドアクローザー（アーム部分）交換

11月

- ・ 206号室壁紙貼り替え
- ・ トライアングル中庭下駄箱修繕
- ・ 居室ドアノブ（サムターン）の確認
- ・ 女性棟浴室、浴槽の掃除
- ・ 食堂テーブル下ネジ確認
- ・ エアコンフィルター掃除、交換
- ・ ドアクローザー交換（607号室）
- ・ レインボー生活棟、5通りトイレ壁修理

12月

- ・ エアコンフィルター掃除の残り
- ・ 換気扇掃除、確認
- ・ レインボー廊下壁修理
- ・ 食堂壁修理

1 月

- ・ エアコン定期点検
- ・ 2，3通り、中庭のホースノズル交換

- ・はままるリビング壁修繕
- ・トライアングルトイレモップ掛け取付
- ・404号室ドアマン交換
- ・トライアングル下駄箱組み立て
- ・405号室ドアマン交換

2月

- ・換気扇掃除
- ・トライアングル長靴用下駄箱の内棚作成
- ・各居室、エアコン掃除
- ・レインボーテレビ横棚修理
- ・レインボー中庭入口ドアクローザー修理（修理不可）

3月

1 まとめ、課題

「営繕作業計画書・報告書書」を作成し、計画通りに作業を行った。エアコンフィルタ掃除にほぼ一日かかるため他の作業が出来ない場合があった。高圧洗浄機を使用する事で効率的に掃除ができた。修繕箇所では壁にパネルが貼ってある為、壁の修理は少ないが長椅子など壊れてきている物が多く感じた。物品の保管場所やエアコンフィルターの掃除の仕方が課題となる。

（見土 唯、藤井秀樹、竹間和輝）

30 食堂

- 1 目的：食堂の環境整備、清掃、備品の管理をおこない、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するため企画検討実施する。

2 内容

- ・食生活係から「食堂係」に名前変更。
- ・各グループで作ったお祝いパネルで誕生日に食堂でのお祝いを行った。
- ・古くなった台拭きは食堂掃除用として使用した。
- ・各グループで必要に応じて利用者の席、机の変更を行った。
- ・利用者の姿勢や体にあった椅子を利用者してもらう為、丸椅子を購入した。
- ・手消毒用のジェスパを使用し食事前の消毒には気をつけた。
- ・毎週日曜日に各グループより一名ずつ集まり、食堂の汚れている箇所を清掃した。
- ・稟議書で一年間の掃除場所を固定し、年度初めに周知した。
- ・食堂掃除は昼は活動係かレインボー、朝、夕は夜勤リーダーが拭き掃除を行った。
- ・ボランティアで台拭きを10枚作成してもらった。

3 課題・まとめ

- ・掃除道具の補充、掃除方法の工夫。
- ・要掃除箇所の周知。
- ・食堂の環境（窓やサンの清掃）。
- ・机の配置。
- ・体に合った椅子やテーブルの選択。

3 1 ともえ通信

1 概要

- ・ともえ通信の編集発行と、平成29年度の事業報告書の編集発行。
- ・ともえ通信は毎月1日に印刷。ご家族、理事、評議員に配布し、同時にホームページに掲載。
- ・職員の感想も募り次号の参考とした。

2 毎月の記事

- ◇5月1日発行 第361号 ①4月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ともえ通信係 ⑤5月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇6月1日発行 第362号 ①5月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動披露会 ⑤6月の予定 ⑥編集後記
- ◇7月1日発行 第363号 ①6月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ミニレク祭 ⑤7月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇8月1日発行 第364号 ①7月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④書道クラブ ⑤8月の予定 ⑥編集後記
- ◇9月1日発行 第365号 ①8月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④物故者追悼式 ⑤9月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇10月1日発行 第366号 ①9月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④フラワークラブ ⑤人事異動のお知らせ ⑥新任職員の紹介 ⑦10月の予定 ⑧編集後記
- ◇11月1日発行 第367号 ①10月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④収穫祭 ⑤11月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇12月1日発行 第368号 ①11月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④文化祭 ⑥12月の予定 ⑦編集後記
- ◇1月1日発行 第369号 ①12月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④餅つき ⑤新年の挨拶 ⑥1月の予定 ⑦人事異動のお知らせ ⑧編集後記
- ◇2月1日発行 第370号 ①1月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④年賀式 ⑤2月の予定 ⑥編集後記
- ◇3月1日発行 第371号 ①2月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動係 ⑤3月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇4月1日発行 第372号 ①3月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会 ⑤4月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記

(今田弘之、高森 強、熊澤誠治)

3 2 職員研修

1 職員研修会

①目的：研修の機会の提供・利用者支援技術の向上

- ・障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を認識するため

②内容

・6月30日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者16名

講師：安田女子大学教授 船津守久先生

内容：①「障害のある人との関わり」「少子高齢社会と子供家庭福祉問題（資料とDVD）

②各グループ、ケース研究 対象者の（不適切な行動・良い行動）の現状報告を行う。」

・ 8月24日（金） 18：20～19：20 センタープレイルーム 参加者15名

講師：三次消防署職員 3名

内容：備北地区消防組合消防本部における、応急手当の普及啓発推進要綱
第5の規定による「救急教室」

・ 9月22日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者24名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①「対人援助の専門家としてのコミュニケーション」講義とDVD

②各グループ、ケース研究（不適切な行動・良い行動）意見交換

・ 11月24日（土） 18：10～19：00

講師：安田女子大学教授 船津守久氏 職員室

参加者14名

内容：①「働く力を育てるポイント」

「障害者のある人への痛みを与えないパニック対応スキル」講義とDVD

②各グループ、ケース研究 （不適切な行動・良い行動）取り組みの発表

・ 3月16日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者名21名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①「支援者であり続ける為に」「就労支援の実際について」

「就労支援者の働く姿、その活動」講義とDVD

②各グループ、ケース研究 各グループ、ケース研究（不適切な行動・良い行動）

・ 船津先生に4回講義していただき、心理学を通して利用者への理解を深めることができた。

・ 参加者の増加を目指し、毎回各職員に参加を促すメールを送った。参加人数が多い回もあった

・ 各グループ1名のケース研究（不適切な行動・良い行動）を行った。取り組みについて討論する機会を持つことができた。今後も継続して取り組を進めていきたい。

（岩戸洋三、高場修治、藤本将太郎）

2 新任職員研修

・ ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。研修資料を渡し、運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他、処遇関係、栄養課業務、看護課業務について研修を実施した。

・ ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続した。

・ 新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々の様子や感想、困った事等はないか、いつでも聞ける体制を敷いた。

・ 実施時期 平成30年4月 対象職員：生活支援員1名・調理員1名

9月 対象職員：生活支援員1名・調理員1名

10月 対象職員：看護師 1 名

3 月 対象職員：生活支援員 1 名

・その他

新人教育チェックシートの実施。新任職員の修得してきた事の確認をするとともに、フィードバックを行い、新任職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために実施。評価は、自己評価に加えサポート職員や各部署の部課長による他者評価を実施しレベルアップに向けて行った。

(宮崎静美)

3 3 親の会

1 概要：ともえ学園入所者のご家族で組織されたものが「ともえ親の会」であり、事務局は親の会係として職員が担当しており、以下親の会の活動を紹介する。

2 事業

- (1) 総会 平成30年 4 月28日 (土) 31家族、57名参加 於：ともえ学園療育センター
- (2) 懇親会 平成30年 4 月28日 (土) 26家族、52名参加 於：三次グランドホテル
- (3) 役員会 ◇1 回目 平成30年 4 月28日 (土) 於：ともえ学園療育センター
◇2 回目 平成30年 6 月17日 (日) 於：ともえ学園療育センター
◇3 回目 平成30年11月11日 (日) 於：ともえ学園療育センター
◇4 回目 平成31年 3 月 2 日 (土) 於：広島市心身障害者福祉センター
- (4) 茶話会 平成30年 6 月17日 (土) 34家族、62名参加 於：ともえ学園療育センター
- (5) 研修会 平成30年11月11日 (日) 48家族、61名参加 於：ともえ学園療育センター
演題「日本画家奥田元宋・人形作家奥田小由女」 講師 渡邊憲司先生

3 ともえ学園行事等への参加、協力

- (1) 演奏会 平成30年 6 月17日 (日) 34家族、62名参加
- (2) グループレクリエーション
◇はなまるグループ 平成30年 9 月30日 (月) 台風ご家族不参加
◇レインボーグループ 平成30年10月 6 日 (日) 台風ご家族不参加
◇トライアングルグループ 平成30年10月14日 (日) 14家族、19名参加
- (3) 作品展示会 平成30年11月11日 (日) 48家族、61名参加

3 感想・今後の課題

- ・懇親会では山本会長さんの提案で、職員にくじ引きによる景品が用意されていた。会長さんの御厚意に嬉しく思った。
- ・茶話会は年齢別の 5 グループに分かれて話しをされ、意見も言いやすかった様子が好評だった。
- ・研修会では予定時間より少し時間が長くなり、午後から予定されていた作品展示会の時間配分が少なくなることがあった。
- ・活動係からの野菜や作品などの販売は大盛況だった。時間が利用者の昼食支援と重なり、職員数の確保が難しかった。
- ・作品展示会は別の機会にして、研修会後面会で終了でも良かった。

(上川清美、中岡健太郎、今田弘之)

3 4 ボランティア

1 概要

- ・社会福祉協議会を通して三次の各地区のボランティアに連絡し送迎などを行い、衣類補修、台拭き縫い、雑巾の作成をして頂いた。

2 施設見学

- ・今年度は施設見学の希望はなかった。
- ・来園されたボランティアの方々の承諾を得て、作業風景などの写真をフェイスブックに掲載させて頂いた。

3 作業

- ・作業に不足している物があれば来園された時に聞きながら補充を行った。
- ・今年度はミシンの調子が良く思った以上に裁縫が進んだ。
- ・ドアホンの説明をして事務所を通して係に連絡が何度かあった。

4 アンケート

- ・今後の対応を向上させるためにアンケートに回答して頂いた。
- ・来園者の方々と話し合って1枚に回答して頂いた。未回答もあったが、ほぼ記入していただいた。

5 受け入れ状況

- ・6月25日 八次地区 2名
- ・7月23日 酒屋地区 3名
- ・10月22日 三次地区 6名
- ・11月26日 川西地区 4名
- ・1月28日 神杉地区 中止
- ・2月25日 和田地区 3名
- ・3月25日 河内地区 4名

6 反省

- ・勤務の都合により係職員が参加出来ない事があったが、以前係だった職員で対応した。
- ・送迎や準備など係で協力して行えた。
- ・係3名ともミシンに糸を通すことが出来なかったのは問題だったと感じた。。

(藤井秀樹、渡邊 武、河合淳雄)

3 5 見学

実施概要

電話等での依頼により、見学日、内容等の希望を聞き、行事予定表に沿って日程調整を行った。特に、生活棟の見学については、利用者への影響や、プライバシーの保護を優先し、時間帯など配慮を行い実施した。

1 見学受入日

- ・8月21日 火曜日 2名 施設見学(入所を考えて ご家族、尾道さつき会職員)
- ・8月29日 水曜日 3名 施設見学(入所を考えて ご家族、育成会相談支援センター職員)
- ・10月26日 火曜日 3名 施設見学(入所を考えて 本人、ご家族)吉長Drとの面談を実施
- ・2月1日 金曜日 4名 施設見学(入所を考えて 本人、雲南市 山楽園職員)

吉長Drとの面談を実施

- 2 見学者受け入れマニュアルに沿って実施した。ともえ学園要覧は毎月、月初めに更新し見学者にお渡しし、見学後にはアンケートにご協力していただいた。

(宮崎静美)

3 6 実習

- 1 目的：自閉症や知的に障害がある方たちに対して、支援方法や人権尊重をふまえた理念を実習生に伝え、福祉専門職に就くために必要な技能と知識の一端を学んでもらう。
- 2 受け入れ状況：
平成31年1月23日～2月1日（10日間） 中国学園大学 こども学部こども学科 1名
平成31年2月4日、5日、7日（3日間） 広島県立三次高等技術専門校 1名
- 3 まとめ（共通）
 - ・自閉症に関して説明してあるDVDを貸し出し事前学習をしてもらい、実習に入る前に理解を深めてもらった。
 - ・実習終了後にDVDを見た感想と実習を終えての感想を提出してもらった。
 - ・実習日誌については事前に実習係係長と配属部署の課長に設定してもらった日々の担当者により、概ねスピーディーに書き込みができ、実習生とのやりとりもスムーズに行うことができた。
 - ・昼食の休憩時間を利用者の食事時間とずらすことで食事支援を経験してもらうことができた。
 - ・入浴支援（脱衣場）も経験してもらうことができた。
- ①中国学園大学
 - ・事前の施設訪問を行い、施設・利用者の特徴などを説明し施設見学を行った。
 - ・自宅からは通えない為、療育センター宿泊室を利用してもらった。
 - ・最終日に設定療育を行い、利用者とのコミュニケーションを深めることができた。
 - ・屋外でのクラブ活動や、降雪等による室内活動の両方を見てもらうことができた。
- ②広島県立三次高等技術専門校
 - ・実習日数が短く、また時間も短かった為、全ての利用者と密に関わるのが難しかった。
 - ・学校からの要請により実習時間内にその日の反省やまとめを移入する時間を設ける必要があった。
- 4 今後の課題
 - ・実習生の予定については受け入れたグループの実習係がサイボウズを通じてグループ職員に周知したが、細かい点では把握が不十分な面もあった。日課や予定の周知の工夫が必要である。

（濱本 豊、見土 唯、川本亜由美）

3 7 あいさつ運動

主旨：挨拶はコミュニケーションのきっかけづくりになります。職員間、職員から利用者へ積極的に挨拶をしコミュニケーションを図り良い関係を築きましょう。

目標：「元気よく、大きな声で、相手の目を見て、気持ちのいい挨拶をする。」

実施計画

- 1 利用者、職員間の挨拶を積極的に行う。
 - ・あいさつレベル5の達成を目標とする。
 - ・司会者に朝礼時と施設見学時にタスキと腕章を付けてもらい、「笑顔で」「元気 にはっきり」とその日の出勤職員や各グループの利用者に率先して挨拶を行う。

準備物：タスキ、腕章 （タスキの更新）
- 2 職員室の掲示板に「あいさつ運動」のポスターを貼る。
 - ・3ヶ月に一度、係員が交替で作成し貼り替える。（B4画用紙）

- ・自由に個性を生かし、標語や絵などのポスターを作成する。

(5月：瀬戸 8月：若床 11月：松本 2月：松本)

- 3 あいさつは、マナーや接遇にも関係しており、利用者や職員間の言動や態度などでこれは？と思われたことに対しては係員が各グループの課長と話し積極的に 正していけるよう声掛けや態度で示していく。

- ・月に一度会議をおこない会議録を作成する。(都合が合わないときはサイボウズ内でやり取りをする)
- ・施設見学記録票を確認しまとめて毎月会議録に記録していくことで周知というかたちにし、改善に向けて行く。

- 4 模範的な見本となる挨拶、姿勢、態度等を具体的に明示する

その他

- ・現場を離れるときに、行き先や、仕事内容を明確に声を出して他の職員に伝えているか(報告・連絡)の啓発を行う。
- ・利用者に対する言動や態度にも注意をする。(相手に体を向ける、あいさつの仕方、同じ高さ目線に立ち挨拶をする。声掛けの仕方など)

- 5 実施状況(実施内容・変更点など)

- ・3ヶ月に1度管理棟職員室に、標語や絵などのポスターを貼り出した。
- ・月に一度サイボウズ内又は口頭で会議をおこなった。
- ・施設見学の記録用紙をまとめ会議録に記録した。
- ・タスキを更新した。

- 6 反省

- ・施設見学の記入用紙をまとめて会議録にただ記録するだけではなく改善点がある場合「こうしましょう」等のよびかけをする感じで会議録に記録できたら良かったと思う。

(中岡健太朗、若床まゆみ、松本和幸)

38 ゴミゼロ運動

- 1 目的：・学園全体の環境美化を整える

- ・ポスターや声かけ等での啓発活動
- ・見回りすることで、環境美化の意識を高める
- ・過ごしやすい綺麗な職場環境作り

- 2 活動内容

- ・2か月に1回(行う日は勤務の都合もある為自身で決める)係1名もしくは2名で学園内外の決められた場所(学園周り、療育センターも含む)の見回りをし、清掃が行き届いていない場所や気になる場所を見つけて報告する。また、清潔に保たれている場所も一緒に報告する。見回り後はサイボウズ内で、反省と課題を話し合う。報告書を提出する。またポスターを掲示し、啓発活動も行う。

◇7月・学園内の見回り ポスター作製

◇9月・療育センター内の見回り ポスター作製

◇11月・学園周りの見回り ポスター作製

◇1月・管理棟見回り ポスター作製

◇3月・学園全体の見回り

3 まとめ・反省

- ・今年度からゴミゼロ係から環境美化係に変更になった。業務内になかなか見回りの時間が作れない為、朝礼の司会の見学の際に見回りを一緒に行った。それぞれポスターを作成してもらい、管理棟職員室に掲示することで少しは環境美化を意識してもらえたのではないかなと思う。ただ、見学した時に汚れている場所があっても、すぐに清掃することが難しかった。やはり、業務内に時間を作って清掃活動をする必要はあるのではないかなと思った。

(川本、金田、藤井佑紀、山下)

3 9 掲示版

1 活動

- ・管理棟職員室のホワイトボードに情報誌やカタログ、広報誌やお便りを掲示し、それと併せてサイボウズに題名、発行者、種別、掲示期限を打ち込み周知した。また参考になる掲示物があればコメント入れて周知した。
- ・サイボウズ内に打ち込んだもので掲示期限を過ぎた物に関しては打ち込んだ職員が消去していきサイボウズ内の整頓にも留意した。
- ・ファイルを用意し、保管すべき掲示物をファイリングするようにした。
- ・掲示物は職員が協力して期限の過ぎた物を撤去し、職員間の連携も保てたと思う。
- ・見栄えが悪くならないようバランスを考えながら掲示した。
- ・期限の切れた書物はリサイクルへ活用することができた。

2 反省

- ・業務等で参考になる資料などは、目立つように掲示するなどの工夫があればよかったと思われる。
- ・掲示版の削除がされていないことがあり、係同士でもう少し声掛けを行うべきだった。
- ・ホワイトボードに掲示する際、広報紙と案内を分けて掲示することを心掛けた。

3 まとめ

毎週に交替しサイボウズへの入力、管理棟職員室ホワイトボードへの掲示を行った。係職員で声を掛け合うなどの連携はとれていたが、サイボウズの掲示版は掲示期限が終わっても削除されていない事が多く、係長より再周知、声掛けするなどで解決できた。来年度は業務に役立つ掲示物はポップなどを貼り付け、多くの職員に見てもらえるような工夫を行っていきたい。

(佐々木優希、金田、河合、岡下)

4 0 エコロジー

1 理念

- ・限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める
- ・施設内で実践できるエコ活動の啓発

2 内容

- ・エコ目標を決め、係を中心に啓発する。
- ・エコに関する標語を8月と12月に掲載する。

3 反省・課題

- ・ポスター作成が主になっては進める事が出来たが、やはり取りかかりが遅くサイボウズでの周知、啓発もおろそかになった。
- ・係職員で話したり、意見を求めたりと連携を早くから実行せず、質問やわからないことが無いこともそのままにして発信も怠ってしまった。
- ・学園以外の所では、どんなエコ活動があるのか、もっと勉強して行くことが課題かと思う。

(林 宏典、竹林祐樹、掛川陽介、)

4 1 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。

ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。

ネットワークカメラへのリンクは削除した。

(前岡孝司)

4 2 広島県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会

1 概要

- ・広島県知的障害者福祉協会の各施設の支援スタッフ部会員として、施設から選任され参加した。
- ・サービス提供における必要な視点、支援技術の情報交換や他施設の見学を通して話し合いながら資質の向上に努める。

2 支援スタッフ部会義

2月25日 平成30年度第4回支援スタッフ部会議・研修会

場所：広島県社会福祉会館

3 内容

- ・グループワーク、IOT/AIに関する研修とグループワーク

4 感想

- ・圏域のスタッフ部会議の開催は無く、今年度の総括と研修会を兼ねたスタッフ部会議のみの参加となった。
- ・IOT/AIをどのように活用するのか、どういった事ができるのか学べた事は資源の活用、資質の向上にこれから活かせるのではないかと感じた。(竹間和輝)

4 3 書道クラブ

1 目的：意識を統一して、書く楽しさを知る。

- ・書くことにより精神の安定を図る。
- ・作品を出展し、生活の励みとする。
- ・書道が好きな利用者の楽しみを増やす。
- ・展示される事でやりがいを見い出す。

2 内容：毎月1回、第3土曜日の午後から大作業室で行った。

- ・メンバーはトライアングル11名、レインボー5名、はなまる15名で行った。
- ・4月からは月毎に課題を決め実施した。

(4月…「緑」 5月…「晴天」 6月…「雨」 7月…「土用」 8月…「花火」
9月…「敬老」 10月…「紅葉」 11月…「柿」 12月…「正月」
1月…「節分」 2月…「立春」 3月…「桜」)

- 3 経過：山縣さんを講師に招き、一年間活動できた。
- ・親の会やセンターでの行事の際には展示を行った。
 - ・毎月、出品用と展示用の2作品を選び、4月分から12月分の作品の中から一人一点を厳選し、1月に「ふれあい書道展」にメンバー全員が出品できた。また、展示用の作品は毎月管理棟玄関への展示を行った。
- 4 課題：昨年より参加希望者が増大した事で1グループ15名、2グループ16名で行ったことで、会場のスペースも手狭に感じた。また、講師と係員、各グループ職員1名では十分な支援が出来なかった為、各グループから職員2名を出して頂く必要を感じた。
- スキルの低い方を重点的に支援すると、スキルの高い方には十分な支援が行き届かず、スキルアップが見込めず、スキルに合わせたグループ編成も必要ではと感じた。
- (講師：山縣圭子、係員：高場修治、岩戸洋三、中岡健太郎)

4 4 フラワークラブ

- 1 目的：専門の講師にフラワーアレンジメントを習い、経験を重ね、自信に繋げていく。
- ・花を切ったり、生けたりすることを体験することで楽しさに繋げていく。
 - ・継続することで、利用者の変化や好み等を観察していく。
- 2 内容：毎月、第3火曜日の13時40分～15時30分
- ・2班に別れ3グループ合同で行った。
 - ・生けた花は、玄関に飾った。親の会行事の時は、センターに飾り、家族の方にも持って帰ってもらった。はなまるは利用者は、自室へ飾った。
 - ・6月には、活動系の協力のもとで、土作りからプランターでの寄せ植えを行った。
 - ・10月には、学園で植えた千日紅をドライフラワーにし、リース作りを行った。
 - ・はなまるの活動で作成した、花を額の様に使用出来る『花のキャンパス・イレカエール』を使用し展示した。また、はなまるの活動で作成した机を使い、展示を行った。
- 3 経過：
- 4月17日 テーマ：青葉、若葉
- 5月15日 テーマ：五月晴れ
- 6月15日 テーマ：成長(寄せ植え)
- 7月17日 テーマ：燃える夏
- 8月14日 テーマ：夏祭り
- 9月18日 テーマ：のどかな秋
- 10月16日 テーマ：リース作り(学園で植えた花使用)
- 11月6日 テーマ：色づいた秋(展示会用)
- 12月18日 テーマ：クリスマスとお正月 (年賀式使用)
- 1月15日 テーマ：春を呼ぶ
- 2月19日 テーマ：ひな祭り
- 3月19日 テーマ：春祭り

4 感想と課題

- ・フラワーアレンジメントも3年目になり、講師の先生とのコミュニケーションもとれている。特にはなまる利用者さんは、挨拶やお礼を積極的に伝えている。

- ・係職員以外にも参加できる職員がいることで、一人ひとりと関わりながら、アレンジメントをすることが出来た。
- ・ハサミを使用して花を自分の感覚で切っていける事が出来る利用者さんも、増えた。
- ・自分で花を切る事が出来ない利用者さんには、事前に切ってセットしたり、利用者さんに聞きながら職員が切る事もあった。
- ・2班に分かれたことで、はなまる利用者さんが他グループの利用者さんに積極的に声を掛け一緒に行ったり、はなまる利用者さんが片付けをするのを見て、他利用者が片付けが出来たり、片付けを手伝う場面などを見ることが出来た。
- ・花の展示後の水やりや片付けが課題なので、活動の中で出来れば良いと思う。

(若床まゆみ、竹林祐樹、掛川陽介)

4 5 施設整備

居室及び廊下窓への遮熱フィルム貼付工事（破損時の飛散防止と遮熱、断熱）

ケース記録システムの変更

自立支援費及び利用料請求システムの変更

洗濯機、乾燥機、汚物処理機更新及び増設（更新時期を迎えたため）

給湯配管漏水補修工事（床下ピット内で発生）

浄化槽修理（ろ材浮上修理）

厨房湿温蔵庫、電磁調理器、ブラストチラー更新（更新時期を迎えたため）

浴槽用薬注ポンプ更新（更新時期を迎えたため）

加湿器設置工事（生活棟廊下に設置）

自動火災通報装置の「直接通報」工事（消防法令の改正に対応）

廊下壁改修工事（痛みの激しい箇所の改修）

居室等扉交換工事（痛みの激しい箇所の交換）

(高田孝康)

4 6 グランドゴルフ

- 1 目的 スポーツをすることの楽しみを持ってもらう
体を動かすことで、現状維持及び向上を目指す。
- 2 内容 ・クラブを使用した機能訓練体操
・グランドゴルフの練習
- 3 経過 各グループで毎週曜日と時間を決めてもらう
※各グループで毎週曜日と時間を設定し、30分ほどの時間で行う。
雨天時にも出来るように、各グループでグランドゴルフのセットは保管してもらう。
雨天時は各生活棟内、プレイルーム、（クラブでの体操）を行った。
- 4 課題 各グループでの日課にグランドゴルフをどうやって組み込めるかが課題であり、全体的な時間の見直しを行う。
グランドにコースを常設することも検討し、すぐに実施出来る様な環境作りを考えていく
グランドゴルフに関して興味をしめさない利用者さんが多かった。大会や行事に参加す

る等、目標に向けて楽しんで取り組める工夫も今後の課題として考えていく。

(菅原献司、濱本 豊、藤井佑紀)

平成30年度 事業報告書

平成31年 6 月 1 日発行

ともえ学園 (障害者支援施設)

〒728-0002 広島県三次市西河内町10250番地
電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934
E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp
URL <http://www.pionet.ne.jp/~tomoe/>
